

取扱説明書

ヤマダダイヤフラムポンプ E シリーズ

DP-FE シリーズ

DP-FE/D シリーズ

DP-FsE/D/H シリーズ

- **はじめに**

このたびは、弊社のダイヤフラムポンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、圧縮エアなどを使用して外部電磁弁によりダイヤフラムを往復動させて液材などを移送する容積型ポンプです。接液部にはふっ素樹脂を使用しています。

- **安全にお使いいただくために**

本書は、本製品を安全に正しくかつ効率的にお使いいただくための重要な事項を記載しています。

本製品をお使いになる前に本書を熟読し、特に本書の冒頭の「警告・注意事項」の項をよくお読みになり、ご理解された上で本製品をお使いください。なお、本書は本製品をお使いいただく際にいつでも参照できるよう、大切に保管してください。

・警告・注意事項

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、警告および注意事項を絵によって表示しています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき操作を行う方や周囲にいる方々に加えられる恐れのある人身事故や、周囲にある物品への損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解いただくようによくお読みください。



警告： この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意： この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害が発生する可能性があることを示しています。

危害や損害の内容を示すために、上記の表示とともに以下の絵表示を使用しています。



この表示は、してはいけない行為（禁止事項）であることをあらわしています。表示の脇には具体的な禁止内容が示されています。



この表示は、必ず従っていただく内容であることをあらわしています。表示の脇には具体的な指示内容が示されています。

・使用上の注意

本製品の取り扱いについて

警告



- ・本製品を駆動するために使用する圧縮流体（以降圧縮エアと記述）については下記のものをご使用ください。

＊エアコンプレッサーにより供給される圧縮エア

＊窒素（N₂）ガス

上記以外の圧縮エアを使用した場合、種類によっては雰囲気汚染、本製品の破損や爆発などの原因となります。



- ・本製品における流体（液材含む）の許容圧力はケーシングの強度により下記のように設定されています。

＊ケーシング材質－ふっ素樹脂：0.5 MPa

ただし、DP-25FE, DP-38FE：0.7 MPa

上記許容圧力を越える圧縮エアおよび液材を使用した場合は、移送液材の漏れ、ケーシングおよびダイアフラムの破損や死亡事故の原因となります。



- ・本製品を移動する際は、すべての内圧を抜いてから運搬してください。加圧したまま運搬を行い、転倒などによる衝撃を与えた場合、本製品の破損や爆発などの原因となります。



- ・危険な液材（強酸や強アルカリ、可燃性および有毒性など）やその液材の雰囲気は、目や皮膚への付着、吸引および服用した場合、重傷または死亡の原因となります。以下の内容に注意してください。

＊移送する液材の性質を十分に理解し、常にその液材メーカーの定めた取り扱い方法（保護眼鏡や手袋、マスクおよび作業着の着用など）に従って作業をしてください。

＊危険な液材の保管は法令で定められた方法（容器、保管場所など）に従ってください。

＊液材配管および本製品の排気口は、必ず人や動物および通路から離れたところに設置してください。



- ・ダイアフラムが破損した場合、電磁弁を経由して排気口からエアとともに液材が吹き出します。またポンプに液圧が作用している（押し込みなどの）状態で、ダイアフラムが破損した場合、液圧により液材が流出します。移送する液材に対する各部材質の耐食性に注意して、P.11「＜NOTE＞外部排気の方法」の項を参照の上、適切な防護処置を行ってください。

警告



- ・換気不足や本製品の近くの裸火や火花は非常に危険な状態を引き起こし、火災や爆発事故の原因となりますので、必ず下記の内容に従ってください。
 - *装置を構成している機械、配管類はすべてにアースを接続してください。
 - *本製品の作動中にスパークを感じた場合はすぐに停止し、確認のうえ原因がはっきりするまで使用しないでください。
 - *本製品や液材配管、排気口の付近には裸火や火花などの、すべての発火要因となるものから離してください。ダイヤフラムが破損した場合、排気口からエアと一緒に液材が吹き出します。
 - *作業現場には、ガソリンや溶剤を含んだウエスなどを放置しないでください。
 - *本製品の設置場所付近にある機械装置は、互いに通電しないように絶縁処置を行ってください。
 - *作業現場内には、火気および白熱灯などの加熱するような電気機器を持ち込まないでください。
 - *作業現場内では、ガソリンエンジンを使用しないでください。
 - *作業現場内は禁煙としてください。



- ・DP-FEシリーズは、駆動エアのほかに信号用として電気を使用しております。可燃性の雰囲気内では使用しないでください。
万一のダイヤフラム破損時には、漏電することも想定されますので、絶対に可燃性液の移送には使用しないでください。



- ・DP-FE/D・FsE/D/Hシリーズに接続するアンプ・コントローラは、信号用として電気を使用しております。可燃性の雰囲気内では使用しないでください。



- ・本製品は、運転を中断し接続している配管を外しても製品の機構上、内部に液材が残留していることがあります。また、長期間運転をしない場合においても製品および接続している配管内に液材が残留していることがありますので、液材をすべて排出してから保管してください。
製品および接続している配管内に液材が残留したまま長期間使用しない場合、周囲の環境により液材が（凍結や加熱による）膨張をして、製品の破損および液材の漏れなどが発生することがあります。



- ・本製品に使用する構成部品は、必ず弊社の純正部品を使用してください。構成部品の追加工や純正部品以外の部品との交換は絶対に行わないでください。



- ・本製品は、各ボルトの締付トルクが経時変化により低下することがあります。運転を開始する前に、整備要領書に従って増し締めを行ってください。

⚠警告



- ・本製品を使用して危険な液材（高温、強酸性など）を移送するときは、その液材が流出した場合を考慮して、防護処置（ピット、防護箱の設置、センサーによる検知など）を行うと同時に必要箇所に警告表示を行ってください。（「12. 警告表示マーク」を作成（または、入手）してケーシングおよび配管などに貼り付けてください。）

液材の流出は、火災、雰囲気
汚染など、大きな事故の原因と
なります。
高温の液材を移送する場合は、
ケーシングや配管などが熱くな
り触れるとヤケドをすることが
あります。

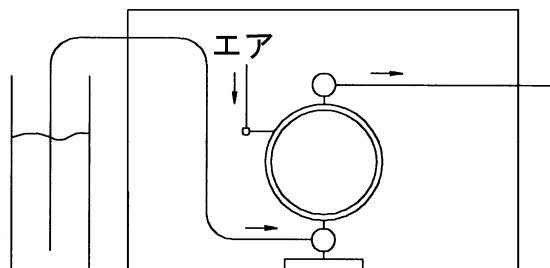


Fig.0.1



- ・本製品をお使いになる前に、移送する液材に関する注意事項を熟知し、その液材に対する接液部品の耐薬品性を必ず確認してください。耐薬品性が合わない場合および爆発の危険を含んだ液材には、絶対にお使いにならないでください。また、耐薬品性についてご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。接液部品の耐薬品性が合わない場合に製品をお使いになりますと、製品の破損および液材の漏れなどが発生することがあります。



- ・本製品により液材を移送している付近で作業を行うときは、保護具（保護眼鏡、マスクなど）を着用してください。



- ・本製品の使用については関連する消防法、労働安全衛生法などの法令に従ってください。



- ・本製品の使用（接続方法や設置方法など）にあたりご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

⚠注意



- ・本製品を運転するときに、使用条件（移送液材、供給エア圧力および吐出圧力）によっては大きな作動音が発生することがあります。法令に関わる場合など、必要に応じて適切な防音処置を行ってください。（各製品の騒音値につきましては「10.1主要諸元」の項を参照してください。）



- ・本製品を駆動するための供給エアは水分の少ないものを使用してください。



- ・本製品はダイアフラムが破損した場合、液材に供給エアが混入または液材が本体部（センサー）や電磁弁に流入します。供給エアおよびそれに含まれている異物の混入によって影響が生じる場合や、本体構成部品の材質が耐薬品性に合わない場合には、本製品を使用しないでください。



- ・本製品の運転中は、吸込口付近に手を近づけないでください。



- ・本製品が弊社工場出荷後より2年間を経過している場合は、使用せずにお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

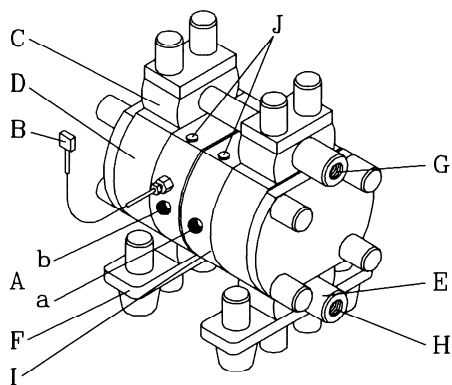
目次

・ はじめに	1
・ 安全にお使いいただくために	1
・ 警告・注意事項	2
・ 使用上の注意	2
・ 目次	5
1.各部の名称と材質	
1.1 DP-FEシリーズ	6
1.2 DP-FE/Dシリーズ	7
1.3 DP-FsE/D/Hシリーズ	8
2.組立	
2.1 付属品の取り付け	9
3.設置	
3.1 運搬方法	10
3.2 製品の設置	10
3.3 クーリングノズルの取り付け	11
4.接続	
4.1 液材配管の接続	12
4.2 エア配管の接続	13
4.3 クーリングノズルの接続	14
4.4 ポンプコントローラー（MFC-24）の接続方法	15
4.5 アンプの設定	17
4.6 PLCによる作動例	19
5.操作	
5.1 運転方法	20
5.2 流量の調節	20
5.3 停止方法	21
5.4 圧力の抜き方	21
6.洗浄方法	22
7.日常点検	23
8.困ったときは	
8.1 ポンプが作動しない	23
8.2 ポンプは作動するが、液材が出ない	23
8.3 流量（吐出量）が減少した	23
8.4 排気口（サイレンサー）から液材が漏れる	23
8.5 作動中、大量にエアを消費する	24
8.6 異音が出る	24
8.7 異常に振動する	24
9.故障時の返品方法	
9.1 返送の前に	24
10.本体仕様	
10.1 主要諸元	25
10.2 外観寸法	27
10.3 パフォーマンスカーブ	35
11.保証規定	40
12.警告表示マーク	41
13.製品保証登録シート	42

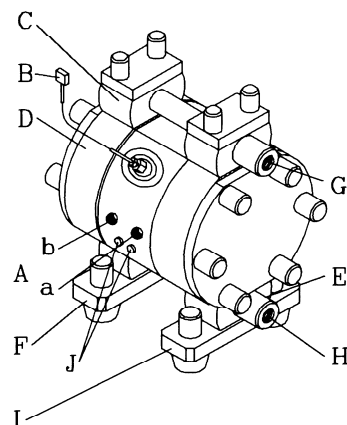
1.各部の名称と材質

1.1 DP-FE シリーズ

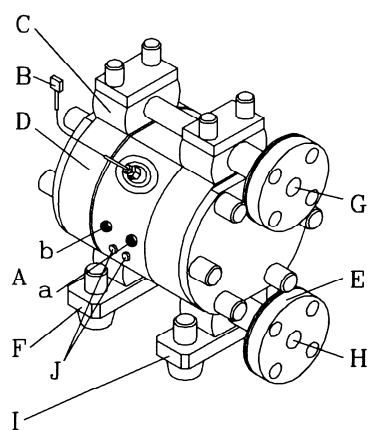
A : エア供給口 (a,b) F : 取付ベース
 B : センサーコード G : 吐出口
 C : アウトマニホールド H : 吸入口
 D : アウトチャンバー I : リフトポイント
 E : インマニホールド J : 冷却用エアブロー



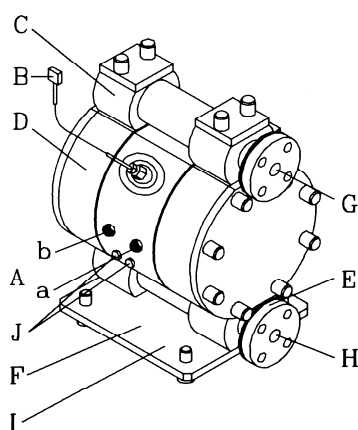
DP-5FE



DP-10FE (ネジタイプ)
DP-20FE (ネジタイプ)



DP-10FE (フランジタイプ)
DP-20FE (フランジタイプ)



DP-25FE
DP-38FE

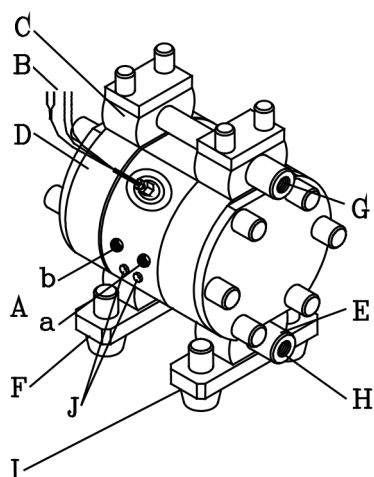
型式	5FE	10FE	20FE	25FE	38FE
本体切換部	PPS	PP		HDPE、PP	
本体接液部	PTFE				
ダイヤフラム	PTFE				
ボール／O リング	PTFE				
バルブシート	PTFE				
センターディスク	PFA(SUS316)				

■付属品リスト

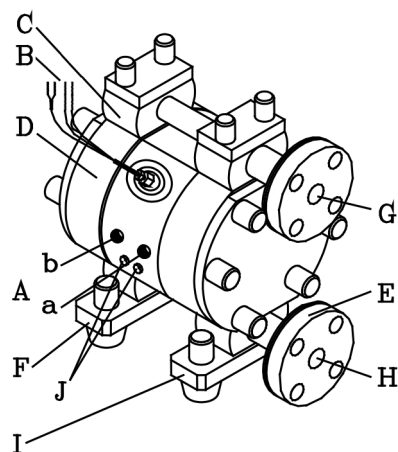
- ・簡易取説 1 部
- ・ユニオン (エア供給口) 2 個 (DP-5FE を除く)
- ・補助板 8 個 (フランジタイプのみ)
- ・付属工具 2 個 (DP-5FE のみ)

1.2 DP-FE/D シリーズ

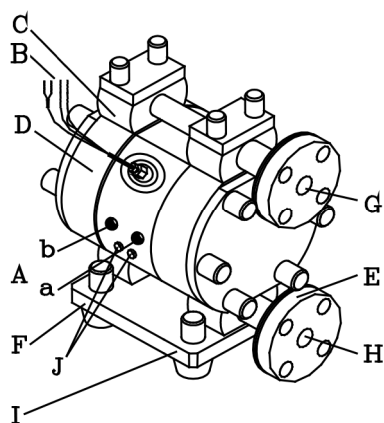
A : エア供給口 (a,b) F : 取付ベース
 B : 光ファイバー G : 吐出口
 C : アウトマニホールド H : 吸入口
 D : アウトチャンバー I : リフトポイント
 E : インマニホールド J : 冷却用エアブロー



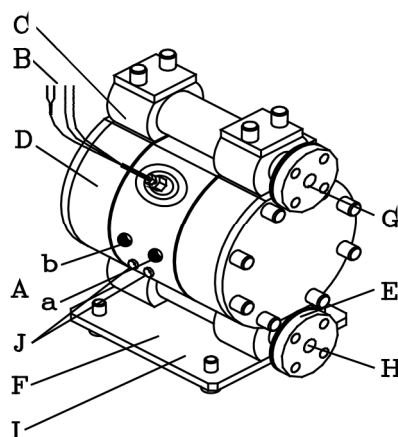
DP-10FE/D (ネジタイプ)
 DP-20FE/D (ネジタイプ)



DP-10FE/D (フランジタイプ)
 DP-20FE/D (フランジタイプ)



DP-25FE/D



DP-38FE/D

型式	10FE/D	20FE/D	25FE/D	38FE/D
本体切換部	PP		HDPE、PP	
本体接液部	PTFE			
ダイヤフラム	PTFE			
ボール／O リング	PTFE			
バルブシート	PTFE			

■付属品リスト

- ・簡易取説 1 部
- ・ユニオン (エア供給口) 2 個
- ・補助板 8 個 (フランジタイプのみ)
- ・ファイバー カッター..... 2 個

1.3 DP-FsE/D/H シリーズ

- A : エア供給口 (a,b)

B : 光ファイバー

C : アウトマニホールド

D : アウトチャンバー

E : インマニホールド

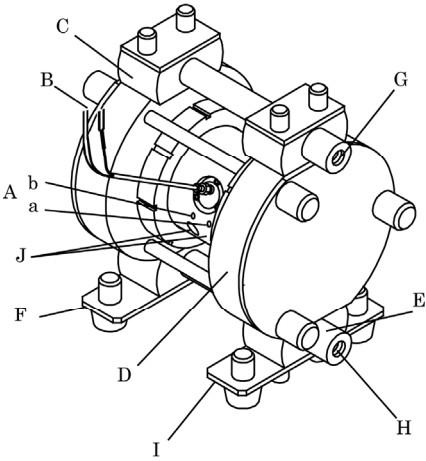
F : 取付ベース

G : 吐出口

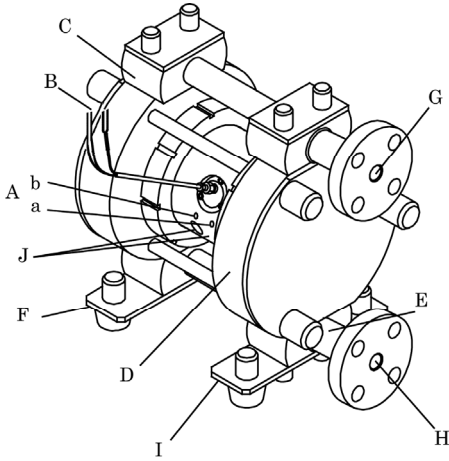
H : 吸入口

I : リフトポイント

J : 冷却用エアブロー



DP-10FsE/D/H (ネジタイプ)
DP-20FsE/D/H (ネジタイプ)



DP-10FsE/D/H (フランジタイプ)
DP-20FsE/D/H (フランジタイプ)

型式	DP-10FsE/D/H	DP-20FsE/D/H
本体切換部	PP	
本体接液部	PTFE	
ダイアフラム	PTFE	
ボール／O リング	PTFE/PTFE、FFKM	
バルブシート	PTFE	

■付属品リスト

- ・簡易取説 1 部
- ・ユニオン (エア供給口) 2 個
- ・補助板.....8 個 (フランジタイプのみ)
- ・ファイバー カッター..... 2 個

2.組立

2.1 付属品の取り付け

- ・梱包を開けて「1.各部の名称と材質」の付属品リストを参照し、付属品の有無を確認してください。

注意



- ・各接続部には、キャップにより蓋がしてありますので、すべて取り除いてください。



- ・付属品を取付けるときは、ゴミが混入しないように注意してください。故障の原因となります。



- ・各ネジ部にはシールテープを使用して、漏れがないようにしてください。



- ・「10.1主要諸元」の項を参照してポンプの質量を確認し、持ち上げるときには十分注意してください。

3.設置

3.1 運搬方法

- ・ポンプを運搬する際、チェンブロック、クレーンなどを使用して吊り上げる場合は、「1.各部の名称と材質」の外観図を参照して所定の部位（リフトポイント）を支持して吊り上げてください。

⚠警告



- ・ポンプを吊り上げたとき、その下を人が通行しないように注意してください。ポンプの落下によりケガをする可能性があります。

⚠注意



- ・「10.1主要諸元」の項を参照してポンプの質量を確認し、持ち上げるときには十分注意してください。



- ・フォークリフトや台車を使用して移動する場合は、ポンプが転倒しないように注意してください。周りの方のケガや、ポンプの故障の原因となります。



- ・ポンプに接続したホースを引っ張って移動することは絶対に行わないでください。ポンプやホースの破損の原因となります。

3.2 製品の設置

- 1) Fig.3.1の A～Dを参考にポンプを設置する適切な場所を検討してスペースを確保してください。

<NOTE>

- ・吸込揚程は可能な限り少なくなるようにしてください。
押し込みで使用する場合はダイアフラムの反転を防止するために下記の数値以下になるようにしてください。
* PTFEダイアフラム：運転時0.02 MPa(高さ2 m)
：停止時0.05 MPa(高さ5 m)
- ・ポンプの吸入口を液中に設置して使用する場合は水位はインマニホールドが浸かるまでを上限としてください。
- ・メンテナンスや修理のために、ポンプの周囲に作業が可能なスペースを確保してください。
- ・液材吸込口および吐出口の向きは、それぞれ逆向きにすることができます。（組み換え方法は整備要領書を参照してください。）
- ・ポンプからの排気にはゴミが含まれています。ゴミの影響がある環境で使用する場合は、その環境に影響のない場所へ排出してください。

- 2) ポンプを移動して設置する場所に置いてください。
- 3) ポンプを固定する場合は、取付ベースのゴム足を利用して共締め形で固定してください。

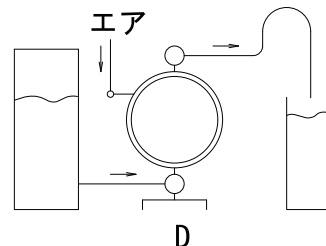
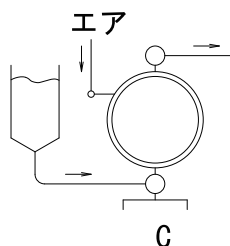
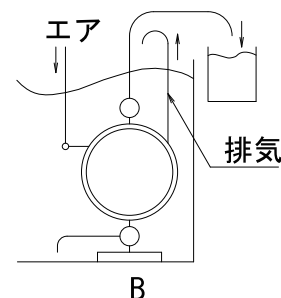
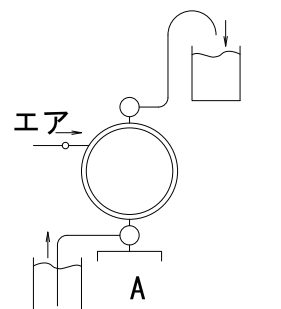


Fig.3.1

⚠注意

- 
 ・ポンプを固定するときにゴム足を使用しない場合でも、ポンプ運転時の振動を吸収できるような固定方法をとってください。
- 
 ・ポンプの吸入口を液中に設置して使用する場合は、下記の内容に従ってください。
 ＊ポンプの吸入口を液中に設置して使用する場合は水位はインマニホールドが浸かるまでを上限としてください。センサー破損の原因となります。
 ＊ポンプの各部材の耐薬品性を確認してください。材質に合わない液材での使用は非常に危険ですので、絶対に使用しないでください。
 ＊各操作用バルブは液材中ではなく外部で操作できるようにしてください。
- 
 ・ポンプを運転するときに、使用条件（移送液材の種類、供給エア圧力および吐出圧力）によっては大きな作動音が発生することがあります。法令に関わる場合など、必要に応じて適切な防音処置を行ってください。（各製品の騒音値につきましては「10.1主要諸元」の項を参照してください。）
- 
 ・危険な液材（高温、強酸性など）を移送するときは、その液材が流出した場合を考慮して、防護処置（ピット、防護箱の設置、センサーによる検知など）を行うと同時に必要箇所に警告表示を行ってください。詳細についてはP.2およびP.4「使用上の注意」をお読みください。

<NOTE> 外部排気の方法

- ・電磁弁のサイレンサーを取り外してください。
- ・アース入りホースを電磁弁排気口に接続し、ホースの先端にサイレンサーを取り付けてください。ホースの口径は排気口と同じ口径のものを使用してください。（電磁弁からサイレンサーまでのホース長さが5mを超える場合はお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。）

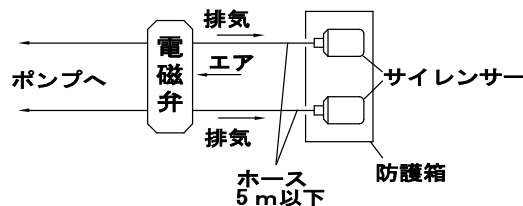


Fig.3.2

⚠警告

- 
 ・ホースの先端部にはダイアフラムが破損した場合の液材の流出を想定して、必ずピット、防護箱などを設置してください。（Fig.3.2）
- 
 ・ポンプの排気は人や動物、食物のない安全なところに排出してください。

3.3 クーリングノズルの取り付け

DP-FE、DP-FE/D、DP-FsE/D/Hシリーズでは、使用環境温度（気温および液温）が60℃（DP-10～38FEは55℃）以上で使用する場合、「4.3クーリングノズルの接続」および整備要領書を参照し、クーリングノズルを取り付けてください。この場合、外径φ6mm×内径φ4mmのチューブを用意してください。

エアブリード用の接続口は本製品の向かって左側（給気口）、右側（排気口）となります。

給気口に冷却用クリーンエアを接続してください。必要風量は毎分約40L（ANR）あれば十分です。

クーリング用のチューブの全長が2.5m未満の場合に、0.3MPaのエア圧力を給気用に供給することで、上記の風量が得られるようにポンプ内蔵ノズルが調整されています。

なお、クーリング用のチューブの全長が2.5mを超え5m未満であれば供給エア圧力を0.4MPaまで上げてください。給気と排気それぞれのチューブの全長はほぼ同じ長さになるようにしてください。

4.接続

4.1 液材配管の接続

- 1) ポンプの液材吐出口に流量調節用バルブ、ドレン用バルブを接続してください。
- 2) ポンプの液材吸込口にメンテナンス用にバルブを接続してください。
- 3) ポンプの液材吸込側バルブおよび吐出側バルブの先にホースを接続してください。
- 4) 吸込側および吐出側のホースをそれぞれの容器に接続してください。

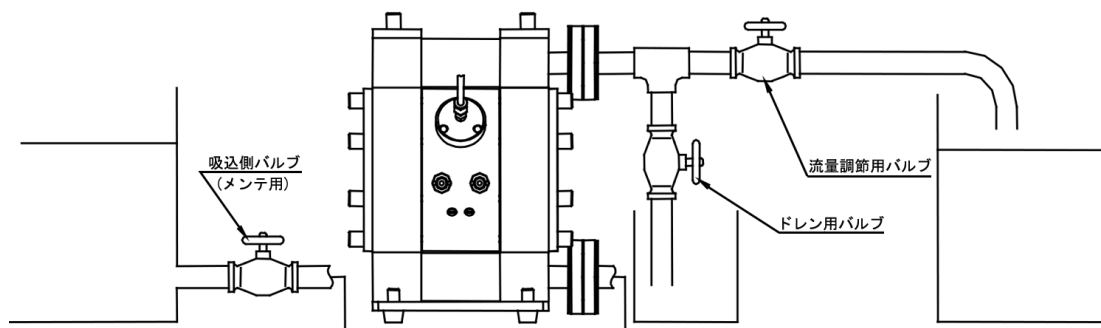


Fig.4.1

⚠注意

- ・ホースはポンプの振動を吸収できるように屈曲性があり、アース線入りのものを使用してください。
- ・ポンプの各接続部には外力がかからないようにしてください。特にホース・配管類の自重に注意してください。
- ・ホースはポンプのサクションによって潰れないものを使用してください。また、ホースの許容圧力に注意してください。
- ・ホースはポンプの口径と同じか、それ以上のものを使用してください。口径の小さなものを使用しますとポンプ本来の性能が十分に発揮することができないだけでなく、ポンプの故障の原因となります。
- ・スラリーを含む液材を移送する場合は、ポンプ最大通過粒子径以下（「10.1主要諸元」の項を参照）のものであるか確認し、主要諸元に表示のスラリー限界を越えるものであるときはストレーナーをつけてポンプ内に入らないようにしてください。故障の原因となります。
- ・ポンプの設置場所の環境によって移送液材の体積変化が大きい場合は、吐出側にリリーフバルブを取り付けて許容圧力値で開放するようにしてください。（Fig.4.2参照）液材の体積変化によりポンプ内圧が許容圧力を超えた場合、破損の原因となります。
- ・ドレン用バルブの先には液材排出用の容器を必ず設置してください。
- ・配管の漏れテストを行う際に、ポンプの吸入および吐出側に外部から圧縮エアなどで圧力をかけてテストを行わないでください。ダイアフラムの反転や破損、切換部故障の原因になります。配管の漏れテストを行う場合は、ポンプの吸込口および吐出口と配管の間にバルブを設置するか、ポンプを配管から外し、プラグを設置するなどポンプに外圧がかからないようにしてください。
- ・スタンバイポンプまたは2台のポンプを並列設置する場合には、必ずINおよびOUT側にバルブを設置し、ポンプの切り換えを液材バルブにより行ってください。もし、停止側のポンプのバルブが開いている場合には、運転側ポンプの吐出圧によりダイアフラムが反転し早期破損要因となります。

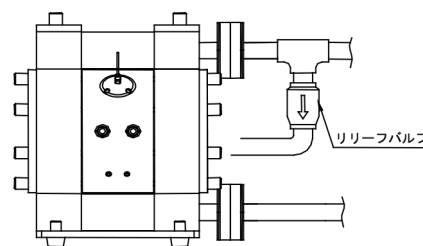


Fig.4.2

4.2 エア配管の接続

⚠警告



- ・作業を行う前に、エアコンプレッサーが停止していることを確認してください。

- 1)コンプレッサーに接続されているホースにエアバルブ、エアフィルター、レギュレーター、エアバルブ（これらを以降、補器類と記述）の順に接続してください。
- 2)これらの補器類をブラケットなどによりポンプの近くに設置してください。
- 3)補器類から電磁弁のエア供給口にホースを接続してください。
- 4)電磁弁からのエアホースを「1.各部の名称と材質」の項を参照しポンプのエア供給口a,bに接続してください。なお、このエアホースの長さは1.5 m以下としてください。
(専用電磁弁の場合は電磁弁Aポートからポンプエア供給口bポート、電磁弁Bポートからポンプエア供給口aポートに接続)

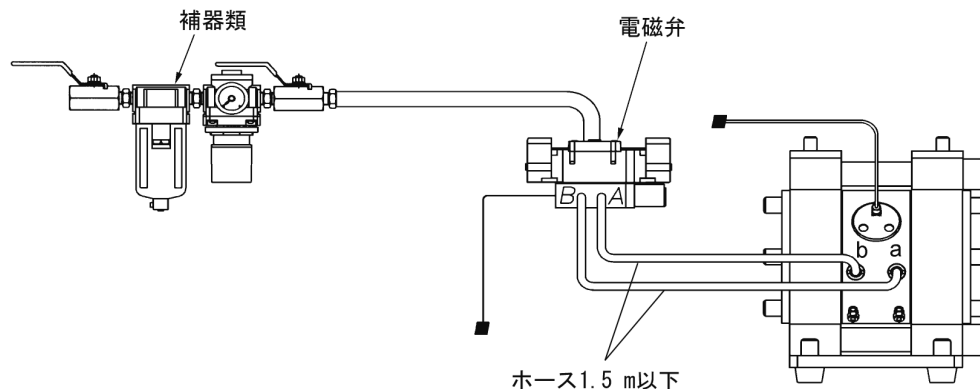


Fig.4.3

⚠注意



- ・ホースはポンプの振動を吸収できるように屈曲性があり、アース線入りのものを使用してください。



- ・ポンプの各接続部には外力がかからないようにしてください。特にホース・配管類の自重に注意してください。



- ・配管や補器類にはゴミが詰まっていることがありますので、ポンプへ接続する前に10～20秒程度エアを流して配管内を洗浄してください。



- ・ダイアフラム寿命維持のため、電磁弁は3ポジション、5ポート、センターエキゾーストのものを必ず使用してください。ダイアフラム破損の原因となります。



- ・配管や補器類は必ずそれぞれにアースを接続してください。

<NOTE>

- ・エア配管は、ポンプに必要なエア流量を確保できるように、ポンプのエア供給口の口径以上のホースを使用し、電磁弁からポンプまでのホース長さは1.5 m以下としてください。
もしホース長さが1.5 mを超えてしまう場合は、急速排気弁などの使用により排気をスムーズにすることで対応可能です。詳しくはお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。
また補器類や電磁弁（オプション品以外をご使用の場合）はポンプの必要エア流量を満たすものとし、電磁弁については、3ポジション、5ポート、センターエキゾーストのものを選定してください。
- ・ホースの接続部にカプラを使用すると作業が容易に行えます。

4.3 クーリングノズルの接続

・DP-FE, DP-FE/D, DP-FsE/D/Hシリーズについて、使用環境温度（気温および液温）60℃（DP-10～38FEは55℃）以上で使用する場合は必ずクーリングノズルを別途購入してエアブローを行い、センサー部を冷却してください。

- 1) ポンプにクーリングノズルを接続してください。接続箇所は「1. 各部の名称と材質」およびFig.4.5を参照してください。
- 2) クーリングノズルINにエア供給用チューブ（外径6 mm×内径4 mm）を接続してください。
- 3) クーリングノズルOUTにエア供給用チューブと同長のエア排出用チューブ（外径6 mm×内径4 mm）を接続してください。エア排出用チューブの先端は、P.11<NOTE>「外部排気の方法」を参照し防護処理をしてください。

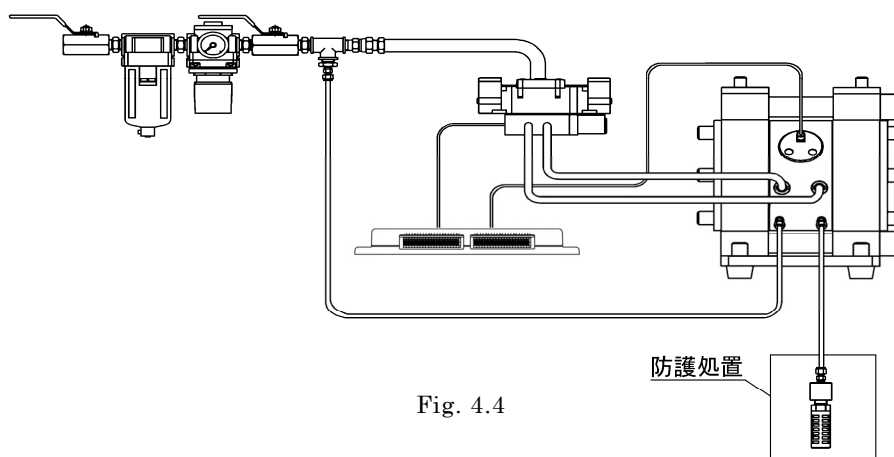


Fig. 4.4

<NOTE>

・DP-FE, DP-FE/D, DP-FsE/D/Hシリーズの全機種に渡り左側がエア供給口、右側がエア排出口となります。

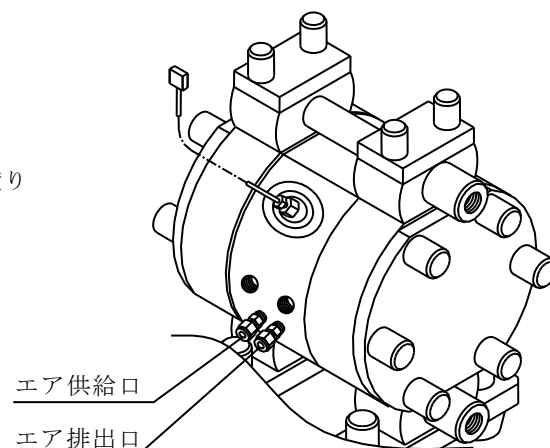


Fig. 4.5

<NOTE>

- ・エア供給用チューブは電磁弁への供給エア配管から分岐してください。（必要風量は毎分約40 NLです。）
- ・クーリング用のチューブ全長が2.5 m未満の場合に、0.3 MPaのエア圧力を供給することで、上記の風量を得られるようにクーリングノズルが調整されています。2.5 mを超え5 m未満であれば0.4 MPaのエア圧力を供給してください。

⚠注意



・使用環境温度（気温および液温）60℃（DP-10～38FE）55℃以上で使用する場合は、必ずエアブローを行ってください。
エアブローを行わないとセンサー破損の原因となります。



・エアブローを行う際、圧縮エアをクーリングノズルのINおよびOUTの両方に供給しないでください。破損の原因となります。

4.4 コントローラー（MFC-24）の接続方法

ポンプコントローラー（型式：MFC-24 別売品）を使用したポンプの作動方法について説明します。
接続方法については、取扱説明書（Doc. No. NDP 506U）を参照してください。
コントローラーを使用しない場合は「4.6 PLCによる作動例」の項を参照してください。

4.4.1 DP-FEシリーズ

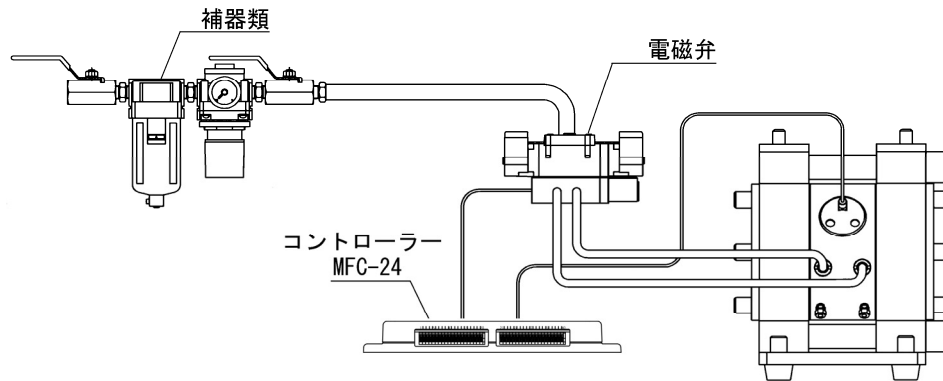


Fig. 4.6

<NOTE>

- ・コードを曲げて配線する場合は、R25 mm以上の曲げ半径としてください。

4.4.2 DP-FE/D、DP-FsE/D/Hシリーズ

アンプ（No.687329 別売品）およびコード（No.687357 別売品）は、2セット用意してください。

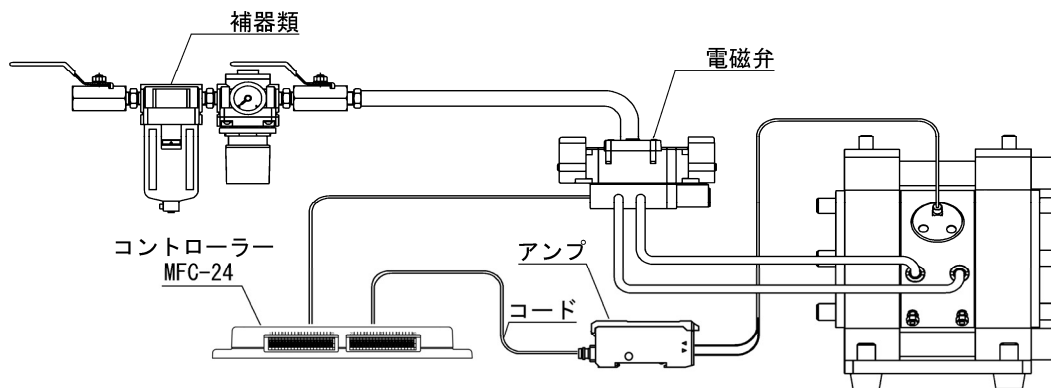


Fig. 4.7

<NOTE>

- ・コードを曲げて配線する場合は、R25 mm以上の曲げ半径としてください。

■光ファイバ先端の切断 (Fig.4.8)

付属のファイバカッターを使用して、光ファイバの先端を切断します。

1. ヒンジを開きます。
2. 光ファイバを、ファイバ切断用の穴（ヒンジの支点側の2か所が使用可）に、約10 mm以上まっすぐ差し込んでください。
3. 光ファイバが正しく挿入されていること（ファイバカッターと光ファイバが垂直であること）を確認したら、刃を一気に押し下げて切断します。

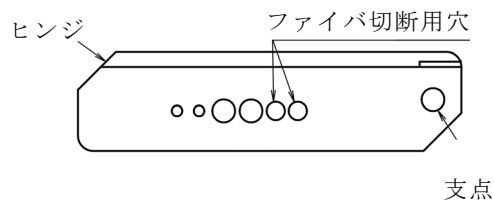


Fig. 4.8

<NOTE>

- ・ 光ファイバは先端部分のみを切断してください。
- ・ 光ファイバを必要以上に切断しないでください。
- ・ 光ファイバの切断は、必ず1本ずつ行ってください。
- ・ 一度切断に使用した穴は、再使用しないでください。

■光ファイバをアンプ組立へ接続する方法 (Fig.4.9)

1. アンプ組立のロックレバーを倒します。
2. ロックレバーが倒れた状態で、光ファイバを奥に止まるまで差し込みます。
3. 光ファイバを差し込んだ後、ロックレバーを起こして固定します。

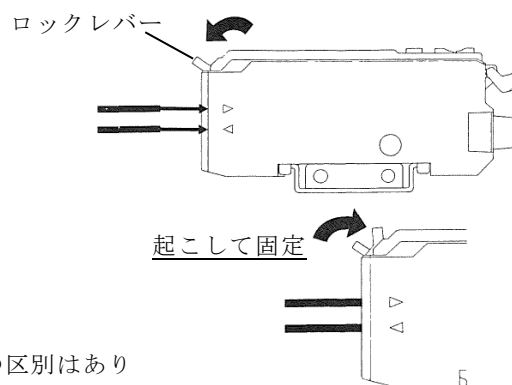


Fig. 4.9

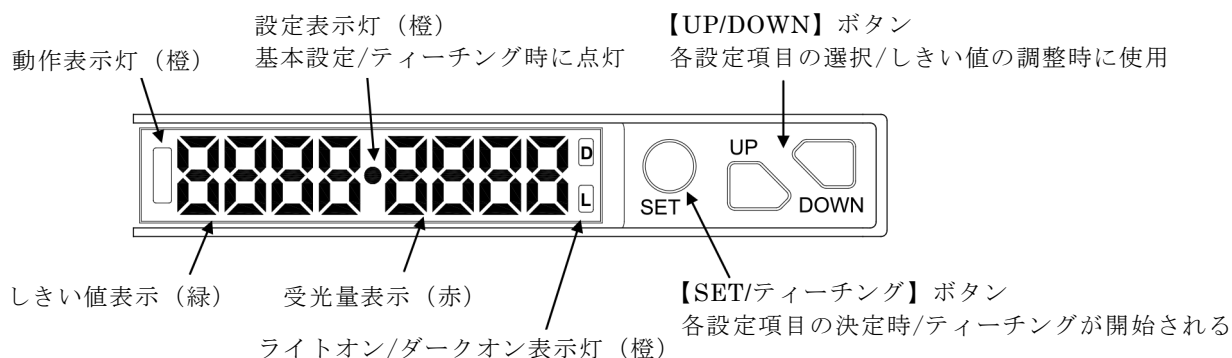
<NOTE>

- ・ 各アンプには上下に接続穴がありますが、投光側と受光側の区別はありません。2本の光ファイバを各穴に差し込んでください。
- ・ A側のファイバとそれ以外のファイバは、左右のアンプに分けて接続してください。
- ・ 光ファイバを曲げて配線する場合は、曲げ半径をR20 mm以上にしてください。

4.5 アンプの設定（DP-FE/Dシリーズ、DP-FsE/D/Hシリーズ）

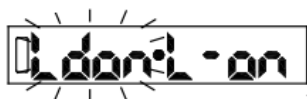
アンプの設定を行う際は、製品に付属の取扱説明書を参照し、以下の手順に従って作業を行ってください。
設定は、A側のファイバとそれ以外のファイバそれぞれ行ってください。

【パネル面の説明】



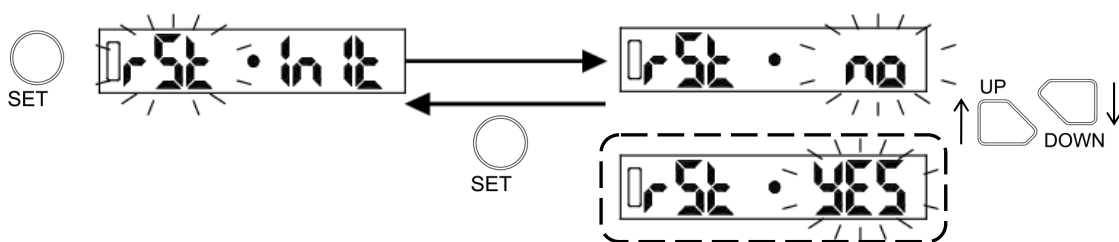
【基本設定モードの入り方】

- 1) 各項目の設定をする際は、基本設定モードに入ってから行ってください。
通常動作中に、【UP】ボタンと【DOWN】ボタンを同時に押すと基本設定モードに入り、最初に「ライトオン／ダークオンの切り換え」の項目が表示されます。



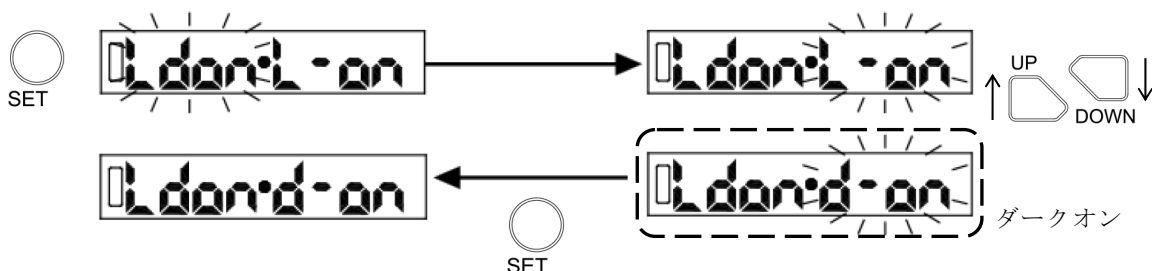
【アンプ設定の初期化】

- 2) 「アンプ設定の初期化」の項目が表示されるまで【SET】ボタンを押し進めてください。
【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンを押して、右側（赤）の表示を「YES」に切り換えた後、【SET】ボタンを押して決定してください。



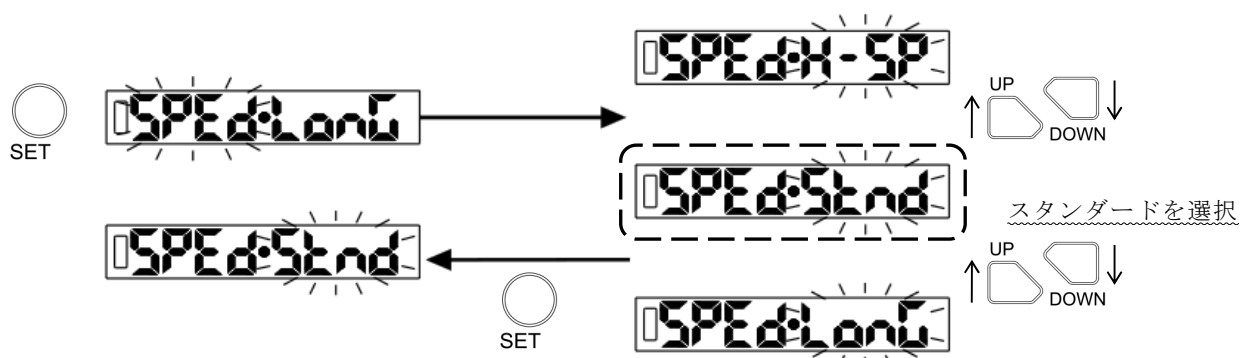
【ライトオン／ダークオンの切り換え】

- 3) 「ライトオン／ダークオンの切り換え」の項目が表示されるまで、【SET】ボタンを押し進めてください。
【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンを押して、「ダークオン」に切り換えた後、【SET】ボタンを押して決定してください。



【検出機能の設定】

- 4) 「検出機能の設定」の項目が表示されるまで【SET】ボタンを押し進めてください。
 【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンを押して、右側（赤）の表示を「スタンダード」に切り換えた後、
 【SET】ボタンを押して決定してください。



【投光量調整方法】

- 5) 「投光調整」の項目が表示されるまで【SET】ボタンを押し進めてください。
 【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンで、右側（赤）の表示を手動調整モード（数値表示）に切り換え、
 【SET】ボタンを押して決定してください。



- 6) 【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンで、左側（緑）に表示されている数値（投光量）を「4」に合わせてください。
 その状態で、右側（赤）に表示されている数値（受光量）が「 2850 ± 600 」の範囲内にあることを確認し、
 【SET】ボタンを押して決定してください。

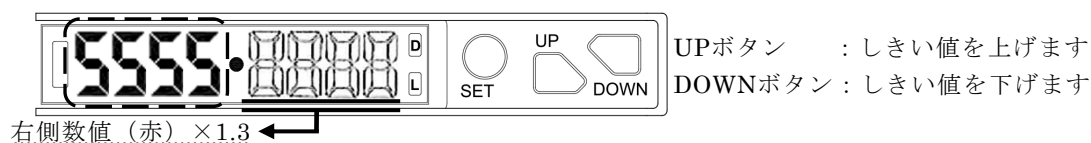
※受光量が範囲を外れる場合は、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載の「製品のお問合せはこちらへ」にご連絡ください。



- 7) 【SET】ボタンを長押しすると、「設定」モードが終了し、通常モードに戻ります。

【しきい値の手動設定方法】

- 8) アンプが通常モードでポンプが作動停止中に、【UP】ボタンまたは【DOWN】ボタンで、左側（緑）に表示される数値（投光量）が、右側（赤）に表示される数値（受光量）に1.3を掛けた値となるように調整してください。



4.6 PLCによる作動例

DP-FE、DP-FE/D、DP-FsE/D/Hシリーズは、数々のメリットおよび安全性を考慮し、信号の出力に「B接点（常時出力）センサー」を採用しております。このセンサーとPLCと組み合わせることで、制御系統の一部として機能させることが可能です。

ポンプを5ポート、3ポジションの電磁弁で動かすため、フリップ・フロップ(F・F)式制御方法を使うことで、安定させることができます。F・F方式には多種ありますが、下記の制御方法を推奨します。

Fig.4.10の論理回路中のSとRは、それぞれセット信号に対応しています。

フリップ・フロップ(F・F)方式の場合、2つの信号いずれかをSとRに繋いでも問題ありません。

F・F方式は制御出力となり常に一方しか出力されません。

F・F方式は2系統の信号入力がある場合に、何れかの信号が入力されるまで片方の力を保持する機構です。

Fig.4.10に示すように、セット優先型の回路では、両方の入力信号が同時にONまたはOFFの状態になった場合でも、出力せず安定した動作をします。

このため、電磁弁の誤接続や何らかの原因によって両方の信号が途切れた場合で、電磁コイルの焼損といった重大な事故を防止します。この機構はPLCによっても作ることができますが注意する点があります。

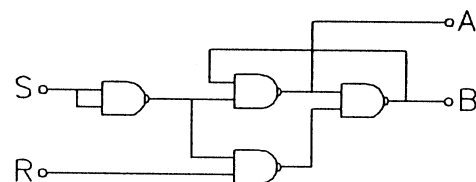


Fig.4.10

PLC出力	トランジスタ式	トライアック式
定格使用電力	12-24 V/DC	100-200 V/AC
電圧許容範囲	0-30 V/DC	50-200 V/AC
最大負荷電力	0.5-1 A	0.5-1 A
出力遅れ	< 0.2 m sec	< 1-10 m sec

[PLCの信号の入力レベルについて]

DP-FE、DP-FE/D、DP-FsE/D/Hシリーズの出力はNPNオープンコレクタのB接点ゆえ信号電圧は、そのセンサーにかけている電源電圧に近い値がとれます。使用しているセンサーの電源の定格電圧はDC12V~DC24Vのため一般のPLCの電源ユニットが使用可能です。

出力部は3通りあります。一般的にはリレーですが、ポンプ寿命（600万ストローク以上）とするとリレーの約100万回の接点寿命では短すぎます。

このためDC24Vまでのソレノイドバルブならトランジスタ、AC100Vのソレノイドバルブなら

トライアックによる出力の使用をお勧めします。

コード接続	
茶	電源：DC12V-24V
白	PNP出力
黒	NPN出力
青	電源：OV

[優先RS型フリップ・フロップの一例]

PLCの中には既にコマンドの中にフリップフロップの命令があるものもあります。新規に取り組む場合の参考としてFig.4.11にその一例をあげます。

abcdの出力はPLC内部の補助リレーを使うのが良いでしょう。

S・Rがポンプセンサーからの入力になります。

(S・Rの入力は常時ONの状態か、または、HI-LEVELの状態です。)

Out AとOut Bが最終出力になり、電源回路を経て電磁弁両端の電磁コイル部に接続してください。

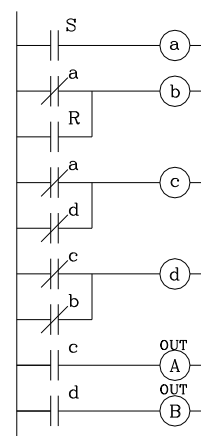


Fig.4.11

5.操作

5.1 運転方法

⚠注意



・ポンプを運転する前に、各配管が正しく接続されていることを確認してください。



・ポンプを運転する前に、各締結部のボルトが緩んでいないことを確認してください。
(規定トルクを指定されている締結部については整備要領書を参照してください。)



・エアバルブ、レギュレーターおよび吐出側のドレン用バルブが閉じ、吸込側のバルブが開いていることを確認してください。

1) エアコンプレッサーを始動してください。

2) 補器類の前のエアバルブを開け、レギュレーターで供給エア圧力を適正範囲内（「10.1主要諸元」の項を参照）に調節してください。

3) 吐出側の流量調節用バルブを開けてください。

4) ポンプコントローラー（型式：MFC-24 別売品）を使用して装置を作動状態にし、電磁弁の手前にあるエアバルブを少しずつ開けてください。

5) 液材が配管内を流れて吐出側に供給されたことを確認したら、エアバルブを全開にしてください。

⚠注意



・エアバルブを急に開けないでください。

5.2 流量の調節

・吐出側の流量調節用バルブを開閉することで調節してください。流量と供給エア圧力および吐出圧力との関係は「10.3パフォーマンスカーブ」の項を参照してください。

⚠注意



・吐出側の流量調節用バルブを閉じていくと、それに伴い供給エア圧力が上昇することがありますので「10.1主要諸元」の項を参照して常用エア圧力の範囲内になるように注意してください。



・液材の粘度や比重、吸込揚程などの条件によって液材がポンプ内に吸入される許容規定流速は異なりますが、ポンプストローク（液材の流速）が速いとキャビテーションが発生し、ポンプの性能が低下するだけでなく、故障の原因となります。供給エア圧力および流量の調節を併用してキャビテーションの発生を防止してください。



・ポンプを運転しても液材が出なかったり、異音の発生などの異常があるときは、ただちに運転を中止して「8.困ったときは」の項を参照して処置をしてください。

5.3 停止方法

- ・ポンプコントローラー（型式：MFC-24 別売品）により停止状態にしてエアバルブを閉じて供給エアを遮断してください。（PLCなど使用の場合はポンプを停止状態にしてください）

⚠注意



- ・ポンプを作動状態にしたまま流量調節用バルブを閉じて、ポンプを停止することに支障はありませんが長時間または監視者のいないときにこの状態を続けると、万一、ポンプや配管から漏れが発生した場合にポンプが運転を開始し、漏れの場所から液材を流出し続けます。作業終了時は後述の「5.4 圧力の抜き方」の項を参照し、ポンプ内の圧力を抜いてエアバルブを閉じてください。



- ・スラリーを移送している場合、ポンプを停止するとスラリーに含まれている固形物がアウトチャンバー内に沈殿、固着し、その状態のまま再度運転を開始したときにダイアフラムが破損、またはセンターディスクに偏荷重がかかり、センターロッドが曲がるなどの故障の発生原因となります。作業終了時は「6.洗浄方法」の項を参照して、ポンプ内に残っている液材を排出してください。

5.4 圧力の抜き方

- 1)ポンプコントローラー（型式：MFC-24 別売品）により運転状態にしてください。
- 2)エアコンプレッサーを停止するか、補器類の手前のバルブを閉じてください。
- 3)吐出側の流量調節用バルブを閉じ、ドレン用バルブを少しずつ開けて加圧された液材を排出してください。
- 4)ポンプが停止して圧力が抜けたことを確認したら、レギュレーターを全閉してドレン用バルブを閉じてください。

⚠注意



- ・ドレン用バルブの先には液材排出用の容器を設置してください。



- ・加圧された液材は、バルブを開けた瞬間に吹き出しますので注意してください。



- ・長期間ポンプを運転しないときはP.3「使用上の注意」を参照して保管してください。

6.洗浄方法

警告



・作業を行う前に、ポンプに圧縮エアが供給されていないことを確認してください。



・作業を行う前に、ポンプ内に圧力がかかっていないことを確認してください。

- 1) 吸込側のホースをポンプから取り外してください。
- 2) 吐出側の流量調節用バルブを閉じてドレン用バルブを開き、しばらくの間始動圧力にてポンプを運転してポンプ内に残っている液材を可能な限り排出してください。
- 3) 吐出側のホースを取り外し、洗浄のために吸込側および吐出側に別のホースを取り付けてください。
- 4) 洗浄用の液材を水槽に用意し、ポンプの吸込側および吐出側のホースを接続してください。
- 5) ポンプを始動圧力にてゆっくり運転して洗浄用の液材を循環させて十分に洗浄を行ってください。
- 6) 洗浄用の液材は移送液材の種類によって選定し、最終的には清水で洗浄を行ってください。
- 7) 吸込側のホースをポンプから取り外して、しばらくの間ポンプを運転してポンプ内に残っている液材を可能な限り排出してください。

注意



・配管を取り外すときには液材が流出しますので注意してください。



・清水での洗浄が終わりましたら、ポンプをクレーンなどで吊り上げて逆さにして排水を行ってください。

7. 日常点検

- ・ポンプの運転を行う前には、毎日必ず下記の事項を点検してください。異常を発見した場合は、原因を究明して処置を行うまでポンプを運転しないでください。
 - a) エアフィルターのドレン量を確認してください。
 - b) 各接続部やポンプから液材の漏れがないことを確認してください。
 - c) ケーシングや配管などにひび割れがないか確認してください。
 - d) ポンプの各ボルト締結部を確認し、必要に応じて増し締めを行ってください。詳細は整備要領書を参照してください。
 - e) 配管や補器類の接続部に緩みがないことを確認してください。
 - f) ポンプの各部消耗品について点検や交換の時期が過ぎていることを確認してください。詳細は整備要領書を参照してください。

8. 困ったときは

8.1 ポンプが作動しない。

原因	処置
電磁弁からポンプへのエア配管が逆。	エアホースを繋ぎ換える。
エアが供給されていない。	コンプレッサーの始動、エアバルブ、エアレギュレーターを開ける。
供給エア圧力が低い。	コンプレッサーの点検、エア配管の構成の確認。
接続部からエアが漏れている。	接続部の点検、増し締め。
エア配管または補器類にゴミが詰まっている。	エア配管の点検、清掃。
吐出側の流量調節用バルブが開いていない。	吐出側の流量調節用バルブを開ける。
液材配管にゴミが詰まっている。	液材配管の点検、清掃。
ポンプ内にゴミが詰まっている。	ケーシングの分解および点検、清掃。
光ファイバ先端部にゴミが付着している。	センサー組立の点検、清掃。
光ファイバの破損	センサー組立の交換。

8.2 ポンプは作動するが、液材が出ない。

原因	処置
吸込揚程または吐出揚程が高い。	配管の構成を確認し、揚程を下げる。
吸込側の液材配管（ストレーナーも含む）にゴミが詰まっている。	液材配管の点検、清掃。
吸込側のバルブが閉じている。	吸込側のバルブを開ける。
ポンプ内にゴミが詰まっている。	ケーシングの分解および点検、清掃。
ボール、バルブシートの摩耗、破損。	マニホールドの分解および点検、交換。

8.3 流量（吐出量）が減少した。

原因	処置
供給エア圧力が低い。	コンプレッサーの点検、エア配管の構成の確認。
エア配管または補器類にゴミが詰まっている。	エア配管の点検、清掃。
吐出側の流量調節用バルブの開き具合が変わった。	吐出側の流量調節用バルブの調節。
液材と一緒にエアを吸い込んでいる。	液材の補充、吸入側配管の構成の確認。
キャビテーションが発生している。	供給エア圧力および吐出圧力の調整。吸込揚程を少なくする。
ボールのチャタリングが発生している。	供給エア圧力および吐出圧力の調整。ポンプ吸入側バルブを絞り、吸入流量を調整する。
液材配管（ストレーナーも含む）にゴミが詰まっている。	液材配管、ストレーナーの点検、清掃。
ポンプの排気口（サイレンサー）にゴミが詰まっている。	排気口、サイレンサーの点検、清掃。
ポンプ内にゴミが詰まっている。	ケーシングの分解および点検、清掃。

8.4 排気口（サイレンサー）から液材が漏れる。

原因	処置
ダイヤフラムが損傷している。	ポンプの分解および点検、ダイヤフラムの交換。
センターディスク締結部のナットが緩んでいる。	ポンプの分解および点検。ナットの増し締め。

8.5 作動中、大量にエアを消費する。

原因	処置
電磁弁、センターロッド部パッキン、Oリングの摩耗。	電磁弁、パッキン、Oリングの点検、交換。

8.6 異音が出る。

原因	処置
供給エア圧力が高すぎる。	供給エア圧力および吐出圧力の調整。
ボールのチャタリングが発生している。	供給エア圧力および吐出圧力の調整。ポンプ吸入側バルブを絞り、吸入流量を調整する。
ポンプ内に最大通過粒子径以上の固形物が詰まっている。	ケーシングの分解および点検、清掃。

8.7 異常に振動する。

原因	処置
供給エア圧力が高すぎる。	供給エア圧力の調整。
ボールのチャタリングが発生している。	供給エア圧力および吐出圧力の調整。
各締結部およびポンプの固定部に緩みがある。	各締結部の点検、増し締め。

- ・これらの処置でポンプの分解が必要な場合は、別冊の整備要領書を参照して各項目の手順に従って作業を行ってください。
- ・これらの原因のどれにも該当しない場合は、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

9.故障時の返送方法

9.1 返送の前に

- 1)「6.洗浄方法」の項に従って、ポンプ内の液材の排出および洗浄を行ってください。
- 2)弊社から納入されたときと同じように梱包をして返送してください。

警告



- ・ポンプの洗浄が不完全なために発生した液材漏れ事故は、荷送人の責任となります。

注意



- ・輸送中の事故防止のためポンプ内から液材の流出が絶対に起こらないようにしてください。

10.本体仕様

10.1 主要諸元

■DP-FE シリーズ

型式		DP-5FE	DP-10FE
呼び口径		1/4" (6 mm)	3/8" (10 mm)
材料接続	吸込口	Rc 1/4	Rc 3/8 または JIS フランジ 10K10A 相当
	吐出口		
エア接続	供給排気口	Rc 1/4×2 ※3※4	
常用エア圧力		0.2～0.5 MPa	0.2～0.5 MPa ※5
最高吐出圧力		0.5 MPa	
吐出量／サイクル ※1		18 mL	60 mL
最大吐出量		12 L/min	20 L/min
最大エア消費量		300 L/min(ANR)	350 L/min(ANR)
スラリー限界 ※2 (最大通過粒子径)		_____	1 mm 以下
粘度限界		0.5 Pa・s 以下	1 Pa・s 以下
使用温度範囲	環境温度	0～70 ℃	
	液材温度	0～80 ℃	
冷却実施環境温度		60 ℃以上	55 ℃以上
最大作動音 ※6		71 dB	82 dB
質量		3.4 kg	7.2 kg

■DP-FE シリーズ

型式		DP-20FE	DP-25FE	DP-38FE
呼び口径		3/4" (20 mm)	1" (25 mm)	
材料接続	吸込口	Rc 3/4 または JIS フランジ 10K20A 相当	JIS フランジ 10K25A 相当	
	吐出口			
エア接続	供給排気口	Rc 1/4×2 ※3※4	Rc 1/2×2 ※3※4	
常用エア圧力		0.2～0.5 MPa	0.2～0.7 MPa	
最高吐出圧力		0.5 MPa	0.7 MPa	
吐出量／サイクル ※1		200 mL	300 mL	560 mL
最大吐出量		52 L/min	65 L/min	85 L/min
最大エア消費量		400 L/min(ANR)	1400 L/min(ANR)	1000 L/min(ANR)
スラリー限界 ※2 (最大通過粒子径)		2 mm 以下	3 mm 以下	
粘度限界		2 Pa・s 以下	2.5 Pa・s 以下	
使用温度範囲	環境温度	0～70 ℃		
	液材温度	0～80 ℃		
冷却実施環境温度		55℃ 以上		
最大作動音 ※6		85 dB		
質量		15.5 kg	31 kg	51 kg

※1.使用条件により異なりますのでご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

※2.フラットバルブタイプはスラリーの取り扱いができません。

※3.エア供給弁（電磁弁など）からポンプまでの配管長さは 1.5 m 以下のこと。

※4.エア供給弁の排気ポートから別の場所まで配管する場合は、排気口末端までの配管長さは 5 m 以下のこと。

※5.圧縮エア品質は「JIS B 8392-1：2000 圧縮空気」の品質等級 2、3、2 を満足するものとする。

（最大粒子径 1 μm、最大圧力露点：-20 ℃、最大油分濃度：0.1 mg/m³）

※6.作動音の測定方法（P.39）をご参照ください。

■DP-FE/D シリーズ

型式		DP-10FE/D	DP-20FE/D	DP-25FE/D	DP-38FE/D
呼び口径		3/8" (10 mm)	3/4" (20 mm)	1" (25 mm)	
材料接続	吸込口	Rc 3/8 または JIS フランジ 10K10A 相当	Rc 3/4 または JIS フランジ 10K20A 相当	JIS フランジ 10K25A 相当	
	吐出口				
エア接続	供給排気口	Rc 1/4×2 ※4※5		Rc 1/2×2 ※4※5	
常用エア圧力 ※1		0.2～0.5 MPa			
最高吐出圧力		0.5 MPa			
吐出量／サイクル ※2		60 mL	200 mL	300 mL	560 mL
最大吐出量		20 L/min	50 L/min	60 L/min	70 L/min
最大エア消費量		350 L/min(ANR)	400 L/min(ANR)	940 L/min(ANR)	1000 L/min(ANR)
スラリー限界 ※3 (最大通過粒子径)		1 mm 以下	2 mm 以下	3 mm 以下	
粘度限界		1 Pa・s 以下	2 Pa・s 以下	2.5 Pa・s 以下	
使用温度範囲	環境温度	0～70 ℃			
	液材温度	0～80 ℃			
冷却実施環境温度		60 ℃以上			
最大作動音 ※6		82 dB			
質量		7.2 kg	15.5 kg	28.4 kg	51 kg

■DP-FsE シリーズ

型式		DP-10FsE/D/H	DP-20FsE/D/H
呼び口径		3/8" (10 mm)	3/4" (20 mm)
材料接続	吸込口	Rc 3/8 または JIS フランジ 10K10A 相当	Rc 3/4 または JIS フランジ 10K20A 相当
	吐出口		
エア接続	供給排気口	Rc 1/4×2 ※4※5	
常用エア圧力 ※1		0.2～0.5 MPa	
最高吐出圧力		0.5 MPa	
吐出量／サイクル ※2		85 mL	160 mL
最大吐出量		20 L/min	40L/min
最大エア消費量		300 L/min(ANR)	400 L/min(ANR)
スラリー限界 ※3 (最大通過粒子径)		1mm 以下	2 mm 以下
粘度限界		1 Pa・s 以下	2 Pa・s 以下
使用温度範囲	環境温度	0～70 ℃	
	液材温度	0～80 ℃	
冷却実施環境温度		60 ℃以上	
最大作動音 ※6		80 dB	82dB
質量		10.6 kg	17.7 kg

※1.圧縮エア品質は「JIS B 8392-1：2000 圧縮空気」の品質等級 2、3、2 を満足するものとする。

(最大粒子径 1 μm、最大圧力露点：-20 ℃、最大油分濃度：0.1 mg/m³)

※2.使用条件により異なりますのでご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

※3.フラットバルブタイプはスラリーの取り扱いができません。

※4.エア供給弁（電磁弁など）からポンプまでの配管長さは 1.5 m 以下のこと。

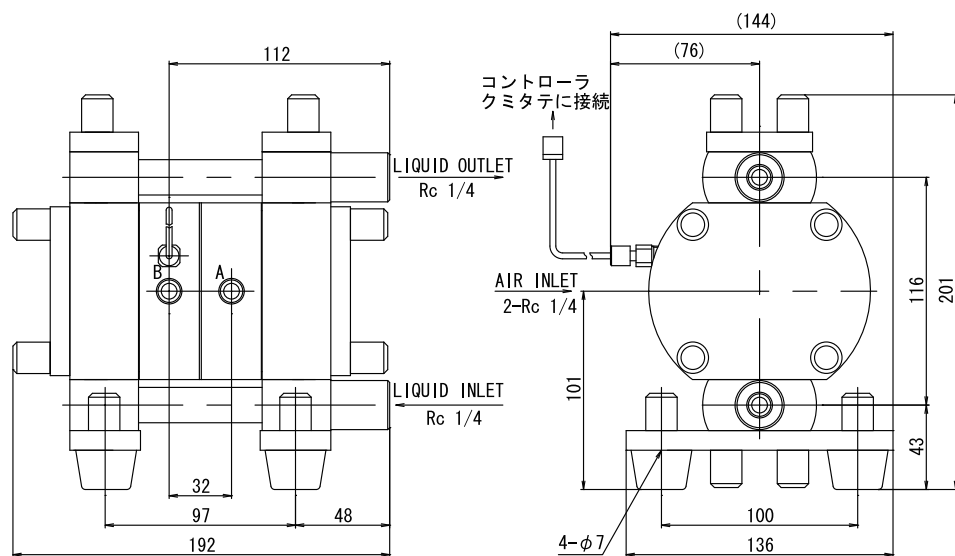
※5.エア供給弁の排気ポートから別の場所まで配管する場合は、排気口末端までの配管長さは 5 m 以下のこと。

※6.作動音の測定方法（P.39）をご参照ください。

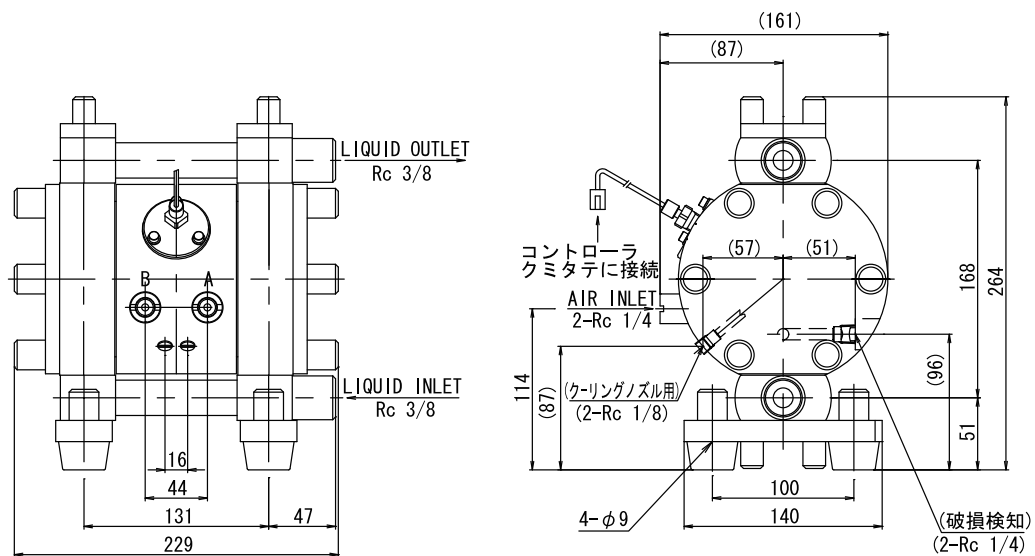
10.2. 外観寸法

10.2.1 DP-FE シリーズ

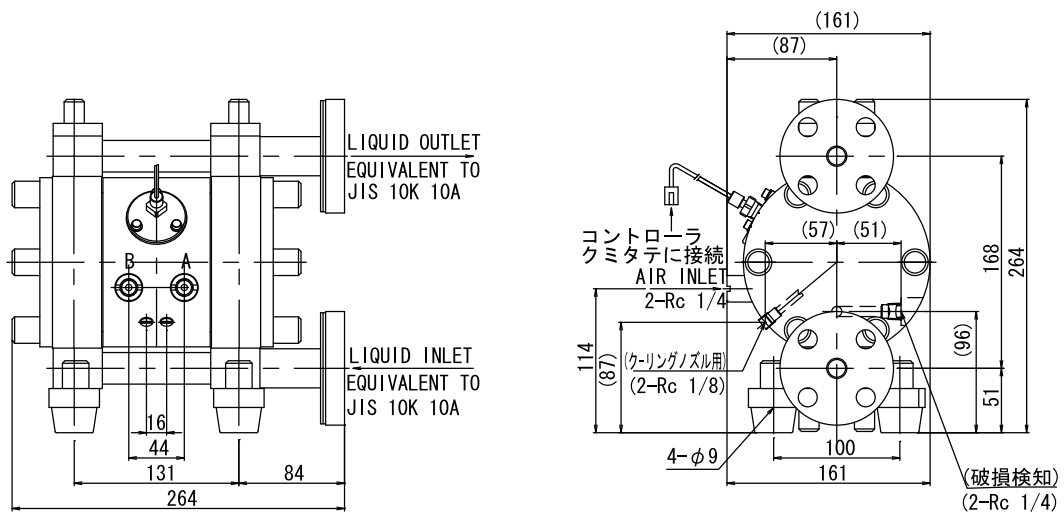
■DP-5FE



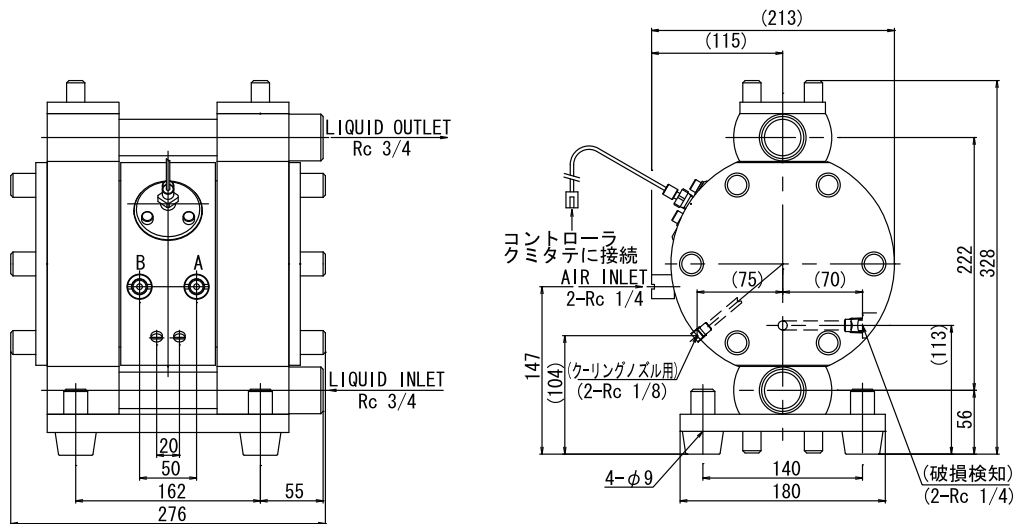
■DP-10FE



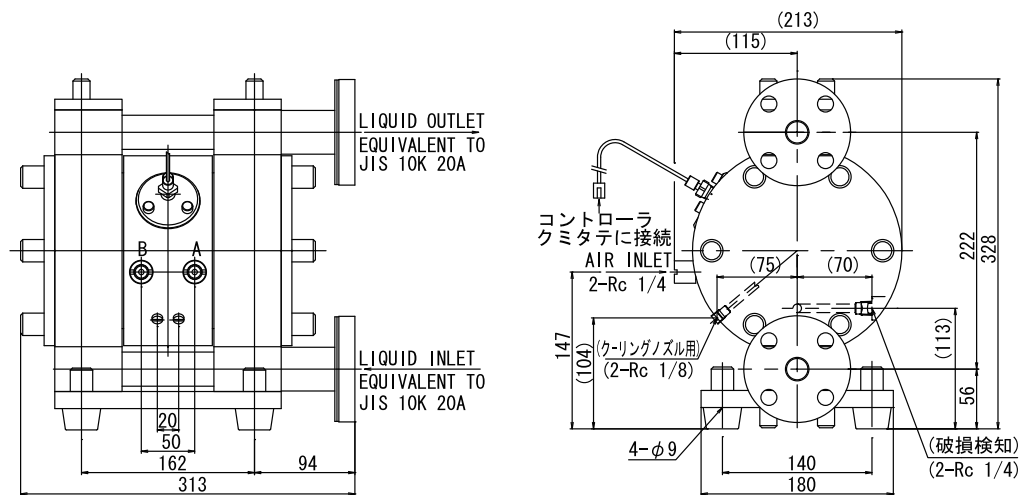
■DP-10FE (フランジ)



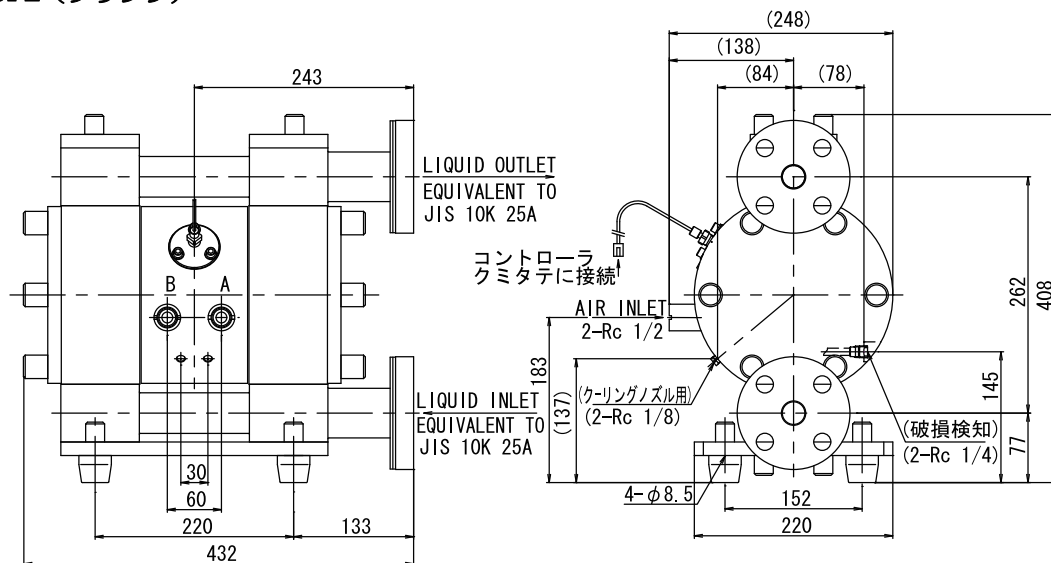
■DP-20FE



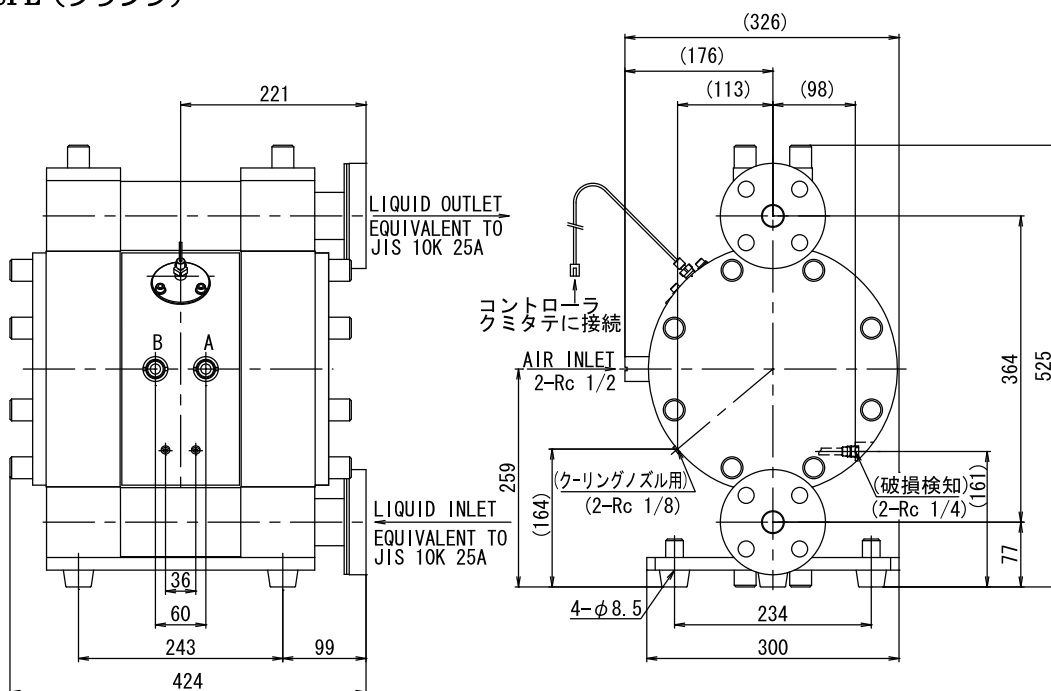
■DP-20FE (フランジ)



■DP-25FE (フランジ)



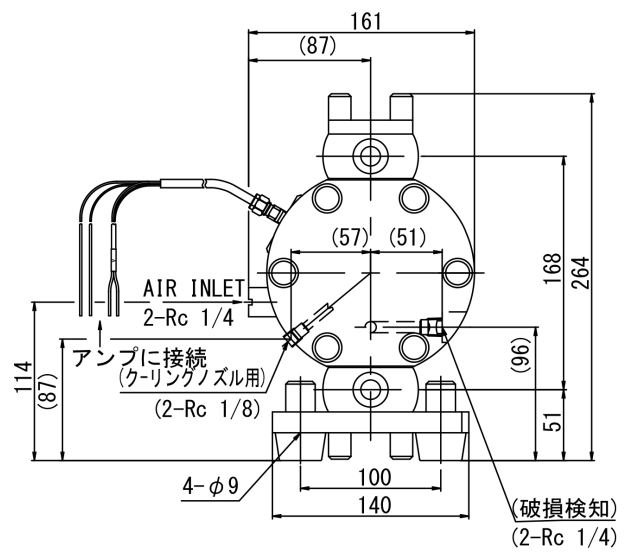
■DP-38FE (フランジ)



⚠注意

- ・各部寸法などにつきましては、製品改良のため予告なしに変更することがあります。
詳しくはお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

■ DP-10FE/D



(87) (74)

114 (87)

AIR INLET
2-Rc 1/4

アンプに接続
(ケーリングノズル用)
(2-Rc 1/8)

(57) (51)

168 264

(96)

51

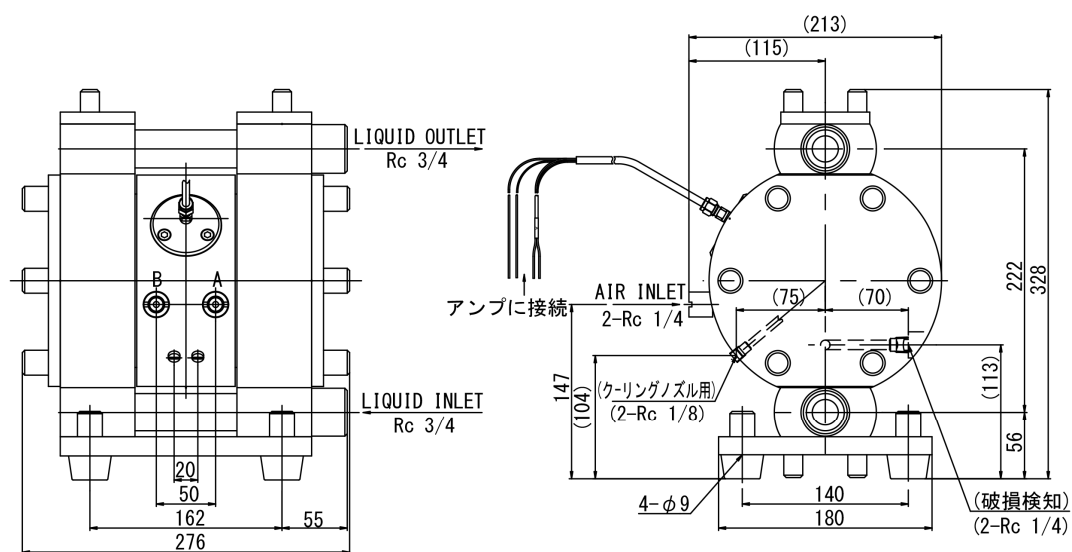
4-φ9

100

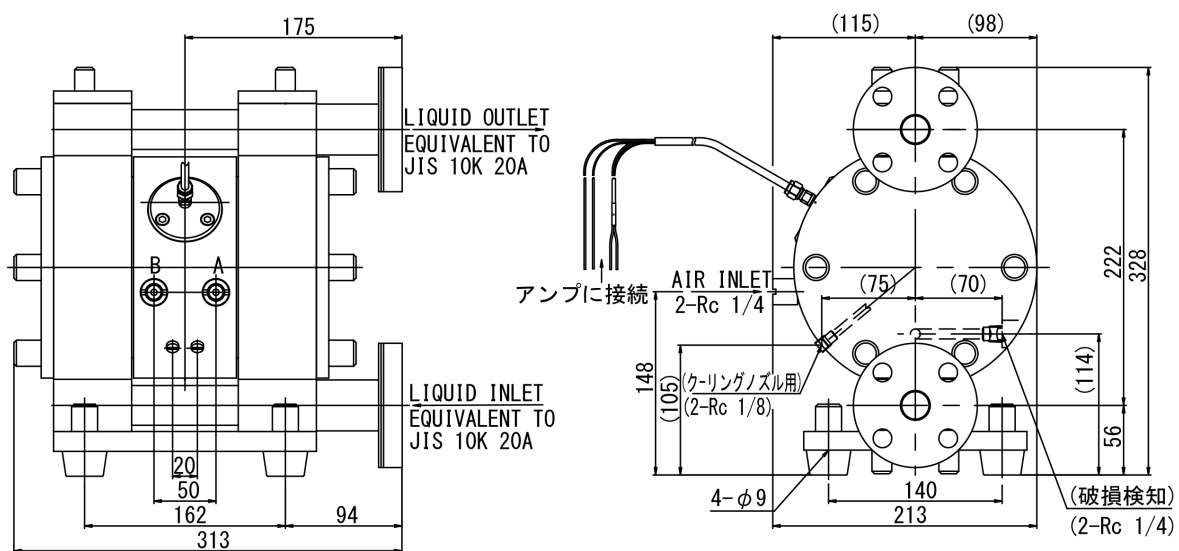
161

(破損検知)
(2-Rc 1/4)

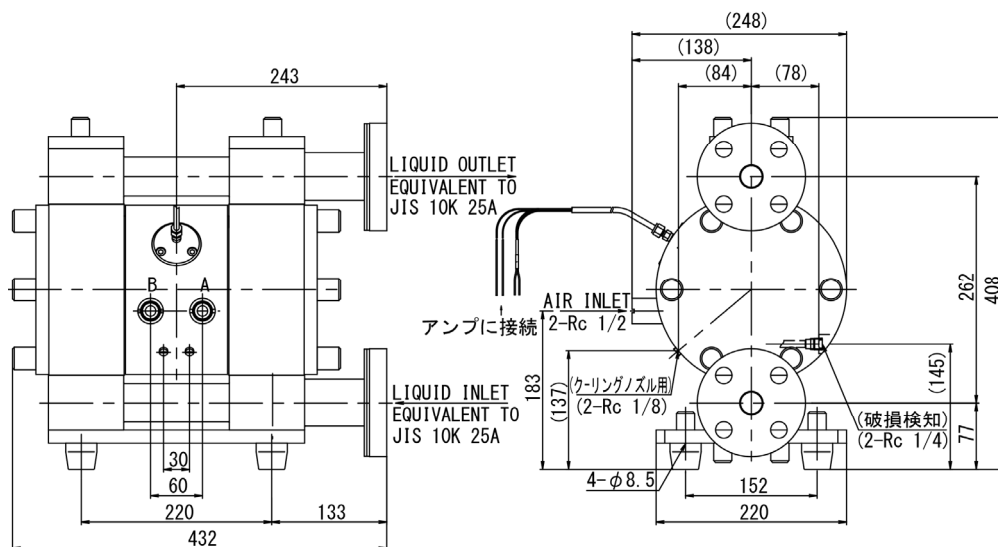
■ DP-20FE/D



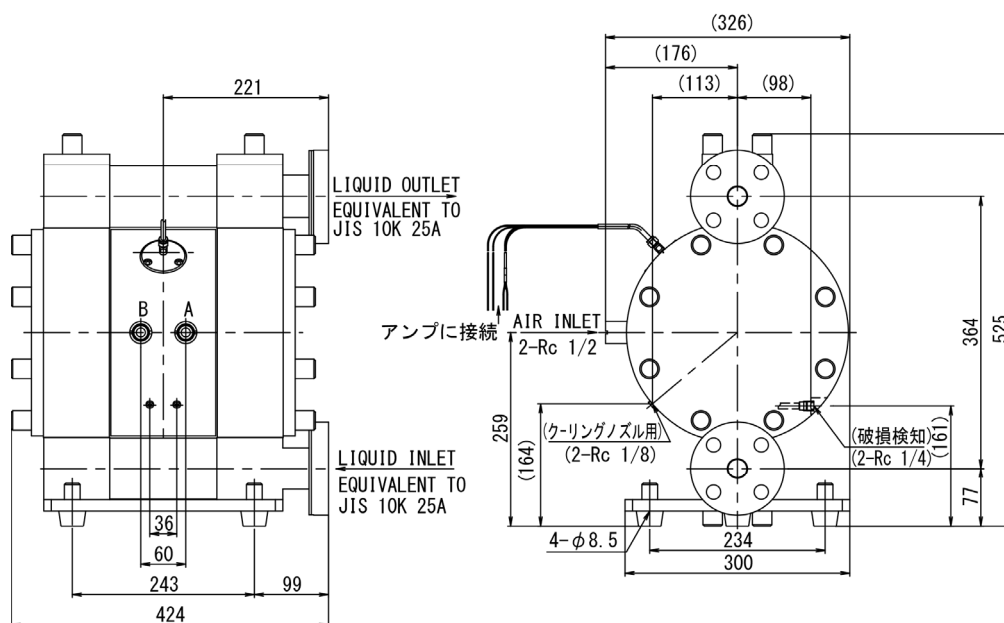
■ DP-20FE/D (フランジ)



■DP-25FE/D (フランジ)



■DP-38FE/D (フランジ)

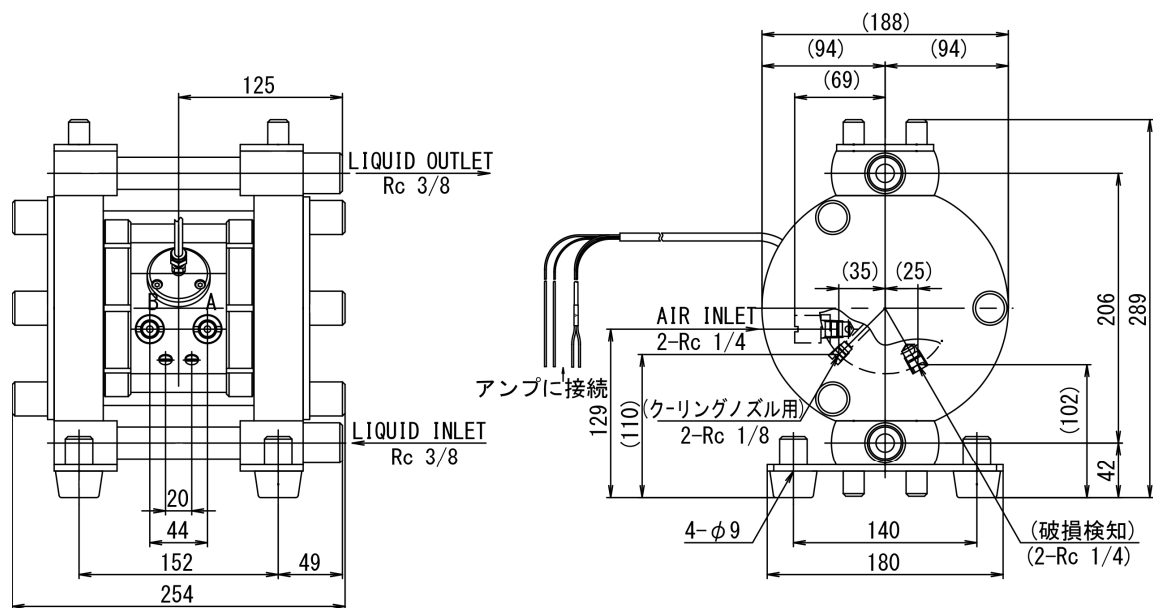


⚠ 注意

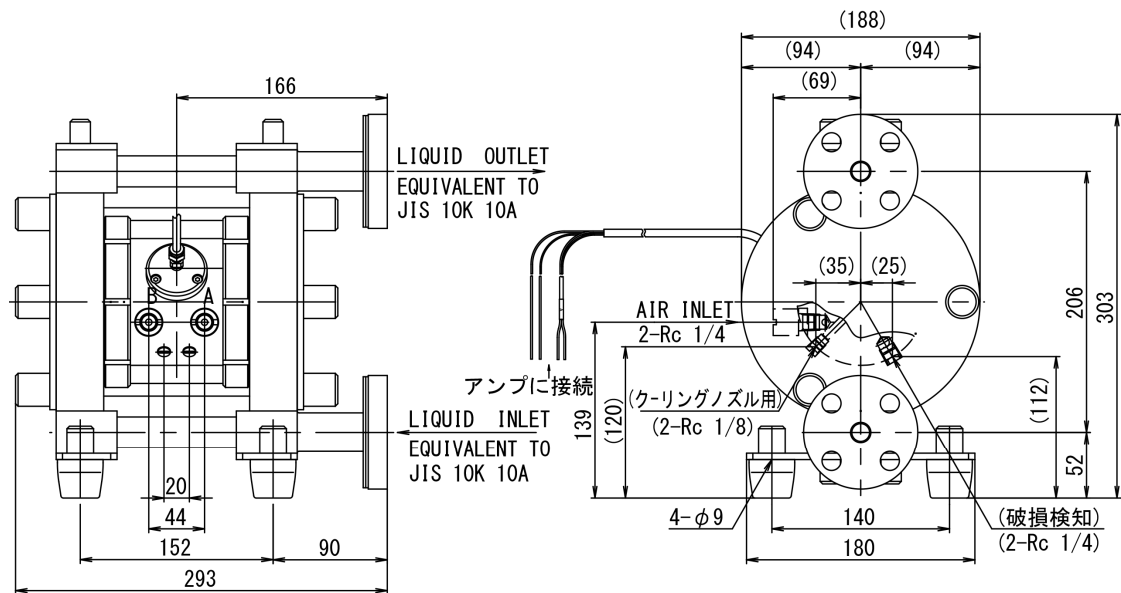
- ・各部寸法などにつきましては、製品改良のため予告なしに変更することがあります。
詳しくはお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

10.2.3 DP-FsE/D/H シリーズ

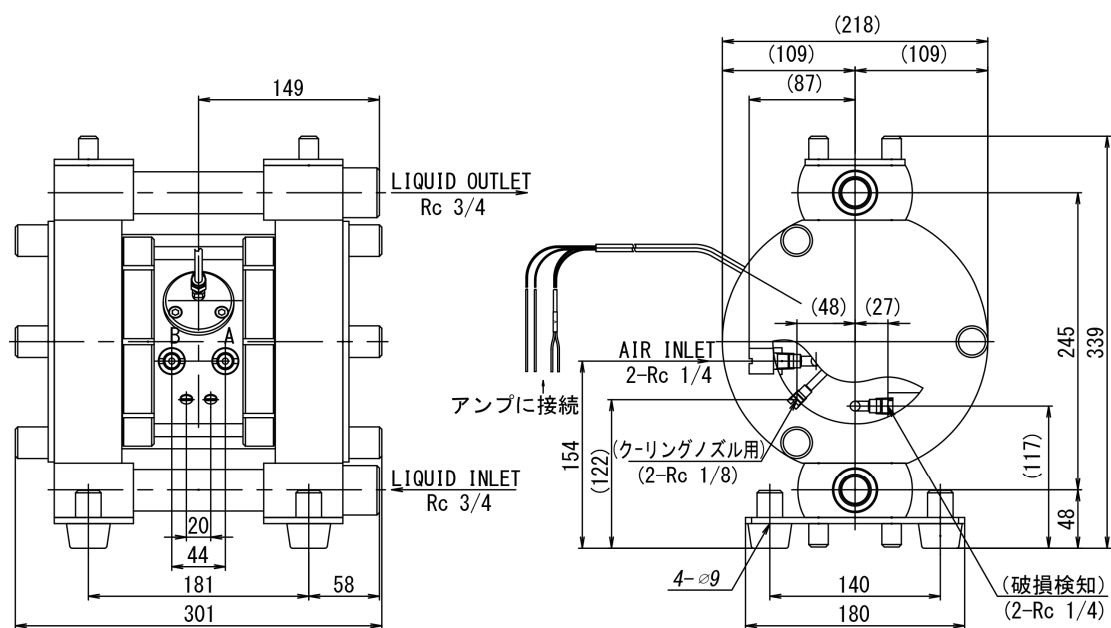
■DP-10FsE/D/H



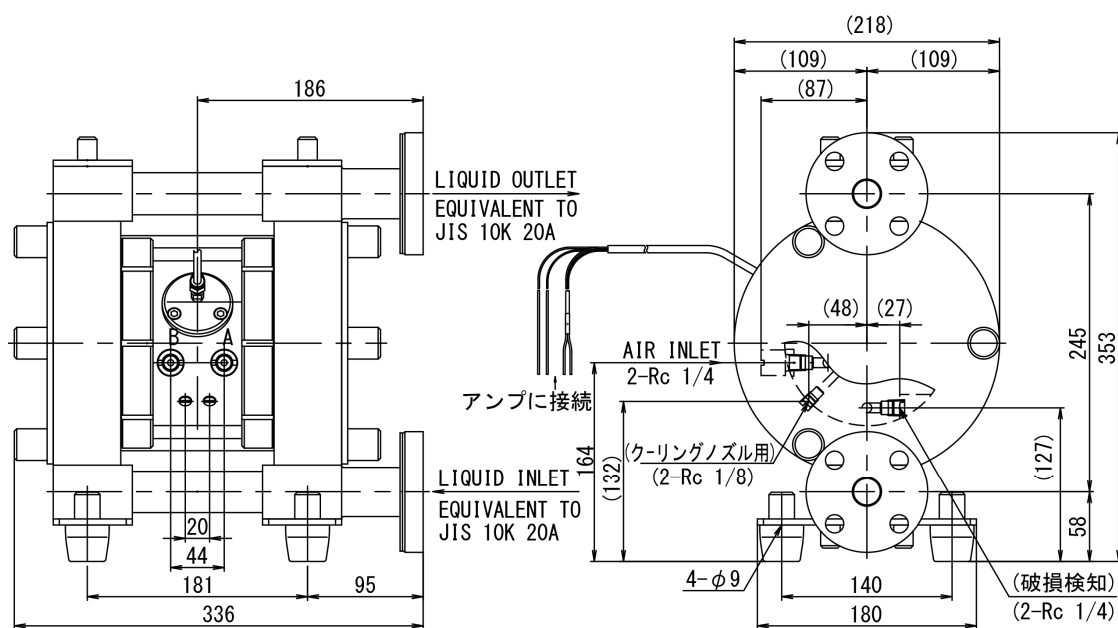
■DP-10FsE/D/H (フランジ)



■DP-20FsE/D/H



■DP-20FsE/D/H (フランジ)



⚠注意

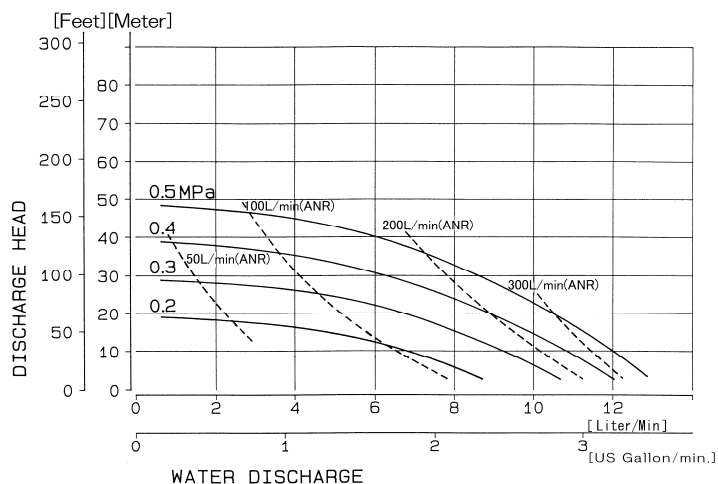
- ・各部寸法などにつきましては、製品改良のため予告なしに変更することがあります。
- ・詳しくはお買い上げの販売店、または裏表紙に記載のお問い合わせ先へご連絡ください。

10.3 パフォーマンスカーブ

10.3.1 DP-FE シリーズ

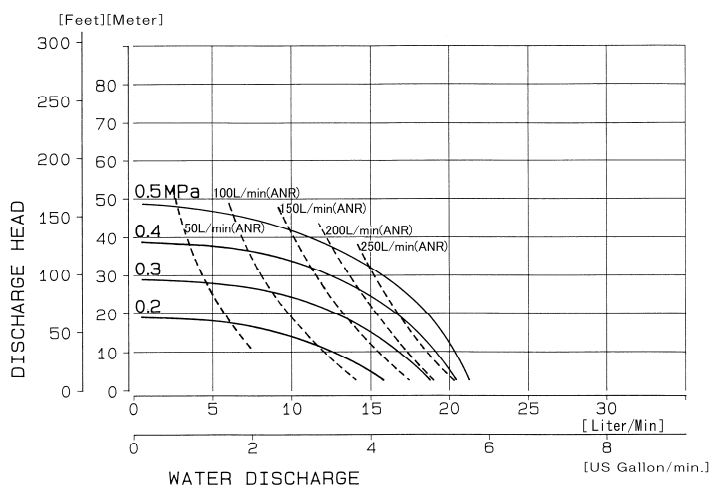
- データはエアチューブ内径 $\phi 6\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-5FE



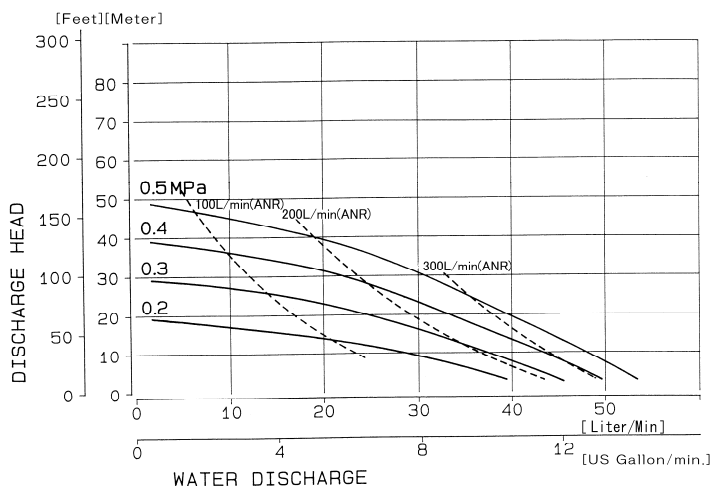
- データはエアチューブ内径 $\phi 6\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-10FE



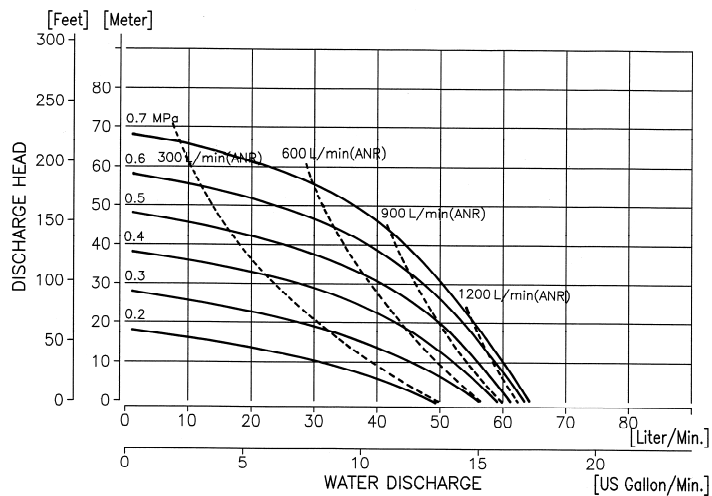
- データはエアチューブ内径 $\phi 8\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-20FE



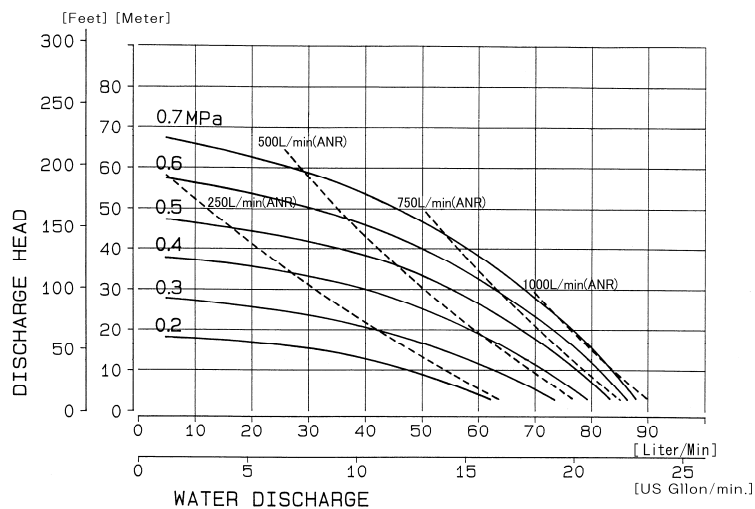
- データはエアチューブ内径 $\phi 10\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 81.0 mm^2 相当

■DP-25FE



- データはエアチューブ内径 $\phi 10\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 81.0 mm^2 相当

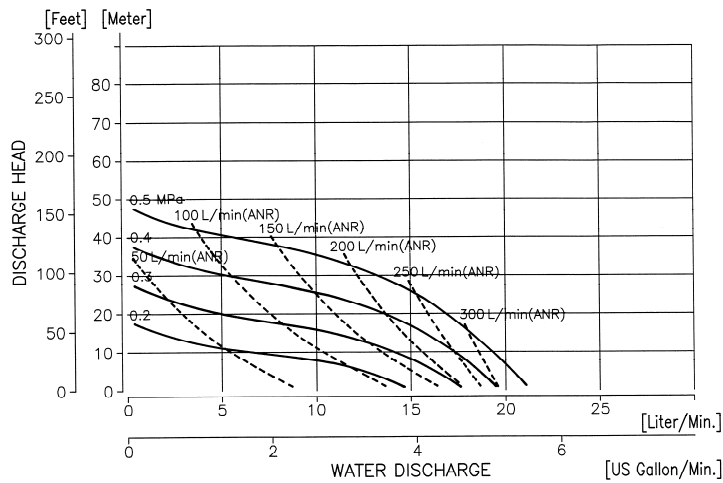
■DP-38FE



10.3.2 DP-FE/D シリーズ

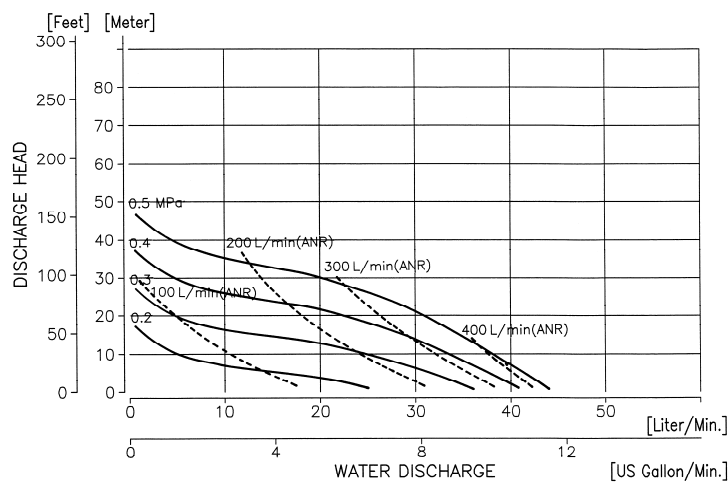
- データはエアチューブ内径 $\phi 6\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-10FE/D



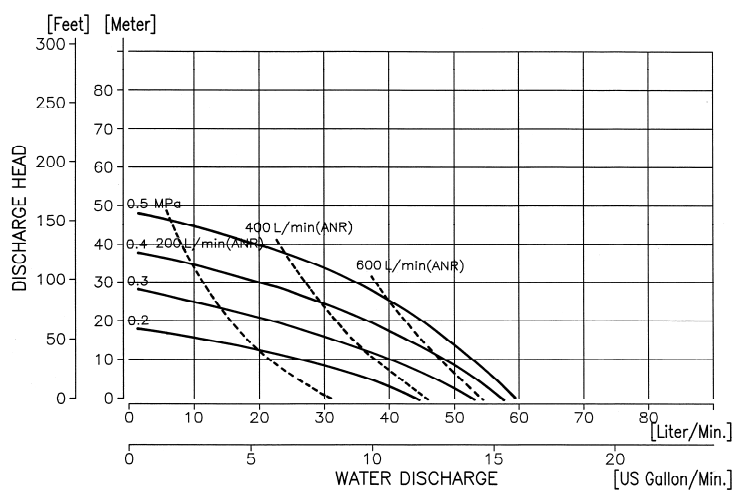
- データはエアチューブ内径 $\phi 8\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-20FE/D



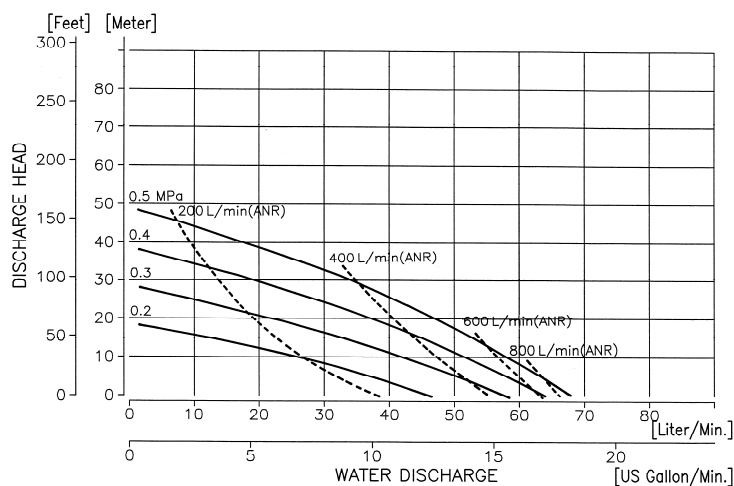
- データはエアチューブ内径 $\phi 10\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 81.0 mm^2 相当

■DP-25FE/D



- データはエアチューブ内径 $\phi 10\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 81.0 mm^2 相当

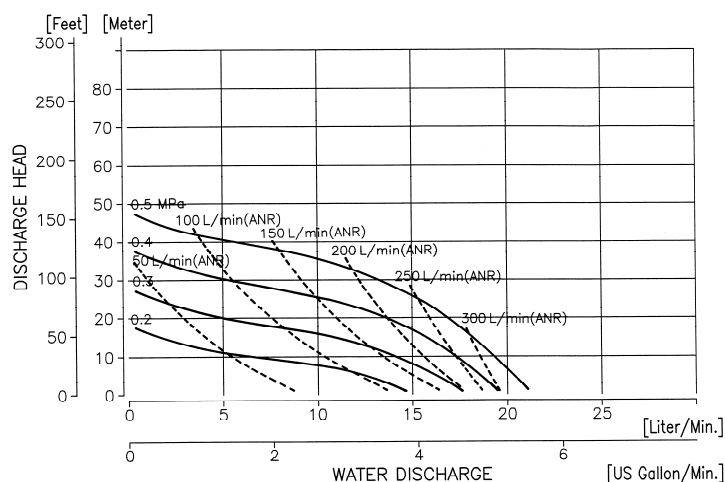
■DP-38FE/D



10.3.3 DP-FsE シリーズ

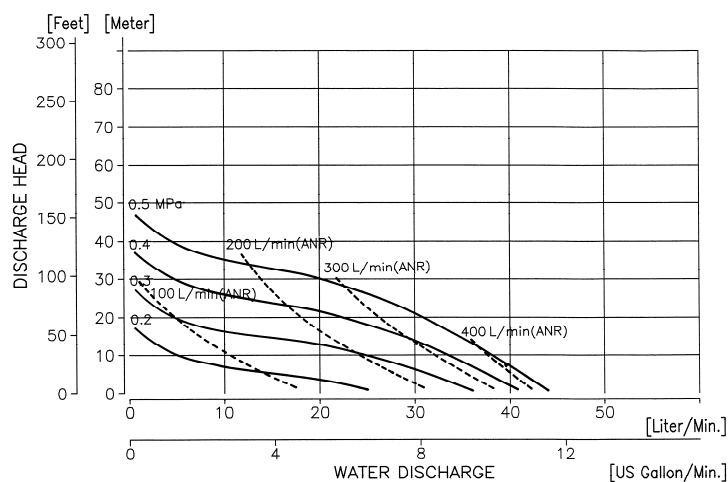
- データはエアチューブ内径 $\phi 6\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-10FsE/D/H



- データはエアチューブ内径 $\phi 6\text{ mm} \times 1.5\text{ m}$ の条件時。電磁弁:有効断面積 34.2 mm^2 相当

■DP-20FsE/D/H



<NOTE> 作動音の測定方法

指示騒音計により、測定点 A、B、C で作動音を測定し、最大値を使用しています。
ノイズレベルは流量測定条件にて測定された最大値です。
ノイズレベルは使用環境により異なります。

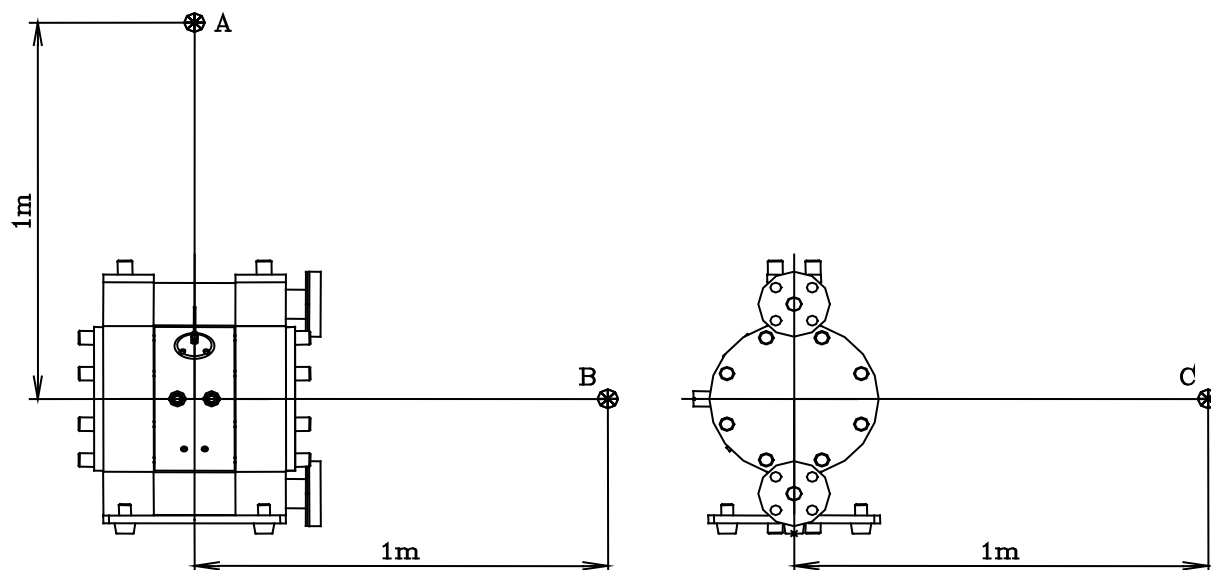


Fig.10.1

<NOTE> パフォーマンスカーブ測定方法

弊社のパフォーマンスカーブは下記の測定機器および配管レイアウトにより測定しています。

・測定機器、配管レイアウト

- ① VFR3400 高圧用ホース 径 3/8"
VFR5400 高圧用ホース 径 1・1/2"
VFR6400 高圧用ホース 径 3/4"
- ② 接続口径高圧ホース 1.5 m

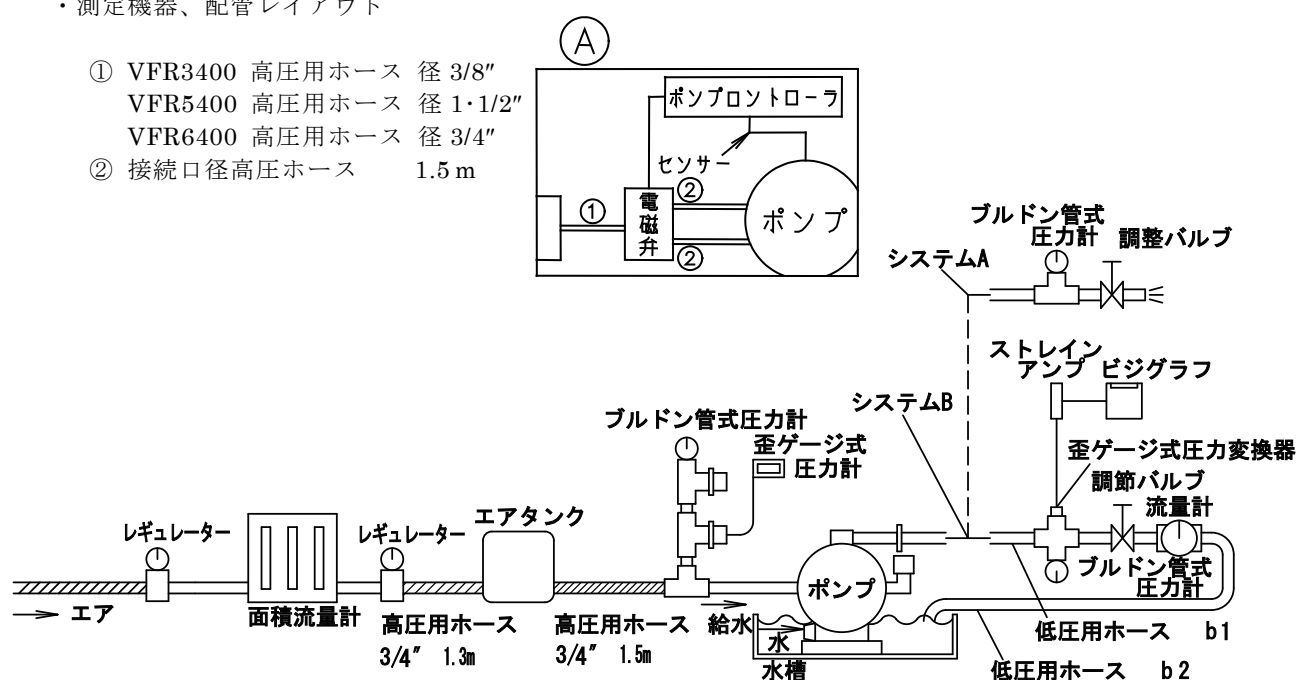


Fig.10.2

・測定条件

- a) 供給エア圧力：設定圧力保持
- b) 移送液材：清水（常温）
- c) 吸込揚程：0 m（液中に設置）
- d) 吐出量測定方法：システム A...重量法による換算測定
システム B...流量計による測定

11.保証規定

本製品は、厳重な検査に合格した後、皆様のお手元にお届けしております。取扱説明書、本体注意ラベルなどの注意書に従って正常なご使用をされたにも拘わらず保証期間内に万一、弊社の責任に基づく故障が起きました場合には、納入日より12か月を保証期間として、当該品を無償にて欠陥部品の手直し、修理、または新品と交換させていただきます。

ただし、二次的に発生する損失の補償及び次の場合に該当する故障についての保証は対象外とさせていただきます。

1.保証期間：製品を納入申し上げた日より起算して12か月間といたします。

2.保証内容：保証期間中に、本製品を構成する純正部品の材料、もしくは製造上の欠陥が表われ、弊社がこれを認めた場合、修復費用は全額負担いたします。

3.適用除外：保証期間中であっても、下記の場合には適用いたしません。

- (1) 純正部品以外の部品を使用された場合に発生した故障。
- (2) 使用・取扱上の過失による故障、保管・保安上の手入れ不十分が原因による故障。
- (3) 製品の構成部品を腐食・膨潤、または溶解するような液体を使用して生じた故障。
- (4) 弊社、または弊社の販売店・指定サービス店以外の手によって分解修理がなされた場合。
- (5) 製品に弊社以外の手によって改造・変更が加えられ、これが原因で発生した故障。
- (6) ダイアフラム、センターディスク、ボール/フラットバルブ、バルブシート、接液部摺動部品、エア切替部摺動部品、パイロットバルブ、Oリング、ガスケットの消耗部品の摩耗
- (7) 指定外の電源(電圧)で使用された事により発生した故障及び損傷。
- (8) お買上後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
- (9) 火災、地震、水害、及びその他天災、地変などの不可抗力による故障及び損傷。
- (10) 不純物や過度のドレンが混入した圧縮エアを動力として使用したり、指定の圧縮エア以外の気体・液体を動力として使用したりした場合に発生した故障。
- (11) 過度に摩耗性を有する材料や、本製品に不適当な油脂を使用した場合の故障。
- (12) 日本国外においてご使用の場合。

尚、本製品及びその付属品に使用されているゴム部品など、あらゆる自然損耗する部品、消耗部品ならびに下記部品については、保証の適用から除外させていただきます。

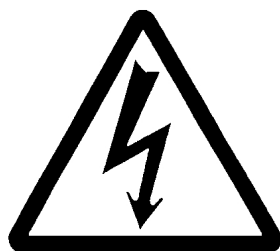
・ホース類 ・各種パッキン類 ・コード類

4.補修部品：補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年とさせていただきます。製造打ち切り後5年を経過したものにつきましては、供給いたしかねる場合もございますので、何卒ご了承ください。

12.警告表示マーク



高温注意



感 電



毒



燃えやすい



腐 食



爆 発



一般的な警告・注意・危険性



火気厳禁

13.製品保証登録シート

- ・お手数ですが、弊社 HP <https://www.yamadacorp.co.jp> からご登録または下記のシートをコピーして必要事項をご記入の上、下記弊社宛てにご送信ください。（フリガナ指定の項目は、必ずご記入ください。）

製品保証登録シート																														
フリガナ 貴社名 _____		フリガナ ご担当者名 _____																												
郵便番号 _____		ご所属 _____																												
フリガナ ご住所 _____ _____		ご連絡先 T e l . () _____ - _____ F a x . () _____ - _____ E メールアドレス _____																												
■ 貴社の業種を下記より選んで○で囲んでください。 <table border="0"> <tr> <td>1. ガソリンスタンド</td> <td>2. 自動車整備業</td> <td>3. 自動車部品製造</td> </tr> <tr> <td>4. 車両・造船業</td> <td>5. 製鉄業</td> <td>6. 機械加工業</td> </tr> <tr> <td>7. 機械製造業</td> <td>8. 電気機械器具製造</td> <td>9. 半導体製造業</td> </tr> <tr> <td>10. 化学・プラント</td> <td>11. 建築・土木</td> <td>12. 塗料・インキ製造業</td> </tr> <tr> <td>13. 薬品・樹脂</td> <td>14. 食品製造業</td> <td>15. 塗装業</td> </tr> <tr> <td>16. 鉄道・バス・運輸業</td> <td>17. 窯業・陶器製造</td> <td>18. 印刷産業</td> </tr> <tr> <td>19. 鋳造業</td> <td>20. 石油産業</td> <td>21. 電気部品製造</td> </tr> <tr> <td>22. 軽金属・非鉄</td> <td>23. 織物・家具</td> <td>24. パルプ</td> </tr> <tr> <td colspan="3">25. その他（詳しくご記入ください。 _____ ）</td> </tr> </table>				1. ガソリンスタンド	2. 自動車整備業	3. 自動車部品製造	4. 車両・造船業	5. 製鉄業	6. 機械加工業	7. 機械製造業	8. 電気機械器具製造	9. 半導体製造業	10. 化学・プラント	11. 建築・土木	12. 塗料・インキ製造業	13. 薬品・樹脂	14. 食品製造業	15. 塗装業	16. 鉄道・バス・運輸業	17. 窯業・陶器製造	18. 印刷産業	19. 鋳造業	20. 石油産業	21. 電気部品製造	22. 軽金属・非鉄	23. 織物・家具	24. パルプ	25. その他（詳しくご記入ください。 _____ ）		
1. ガソリンスタンド	2. 自動車整備業	3. 自動車部品製造																												
4. 車両・造船業	5. 製鉄業	6. 機械加工業																												
7. 機械製造業	8. 電気機械器具製造	9. 半導体製造業																												
10. 化学・プラント	11. 建築・土木	12. 塗料・インキ製造業																												
13. 薬品・樹脂	14. 食品製造業	15. 塗装業																												
16. 鉄道・バス・運輸業	17. 窯業・陶器製造	18. 印刷産業																												
19. 鋳造業	20. 石油産業	21. 電気部品製造																												
22. 軽金属・非鉄	23. 織物・家具	24. パルプ																												
25. その他（詳しくご記入ください。 _____ ）																														
ご購入年月日	_____ 年 _____ 月 _____ 日	主なご用途																												
ご購入販売店		製品名（型式）																												
		製品番号																												
		SERIAL No.																												

※個人情報は当社の個人情報保護方針に基づき適切な安全対策のもと管理し、お客様の同意なく第三者へ開示、提供いたしません。

宛先
株式会社 ヤマダコーポレーション
営業本部
TEL. 03-3777-4101
FAX. 03-3777-3328

株式会社ヤマダコーポレーション

本社・営業本部 〒143-8504 東京都大田区南馬込 1 丁目 1 番 3 号
ホームページ <https://www.yamadacorp.co.jp>
E-mail sales@yamadacorp.co.jp



札幌営業所 東京営業所 大阪営業所 福岡営業所
仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 相模原工場

製品お問合せはこちらへ ☎0120-518-055